西宮市立山口中学校
理科部・モリアオガエル保存会
活動 50 周年記念誌

Since 1969

西宮市立山口中学校
理科部・モリアオガエル保存会
活動 *50* 周年記念誌

年　代　記

昭和 43 年　1968 年　6 月

理科部生徒が帰宅途中、山口町の道ばたでモリアオガエルの死体を発見。中野地区の山中を探した結果、成体を 2 匹発見。（阪神間で初の確認）

昭和 44 年　1969 年　6 月

中野の一ッ家宅付近の小池に卵塊を発見。イモリなどの天敵による捕食を避ける目的で、学校内で飼育を始め、7 月に放池する。

昭和 45 年　1970 年　9 月

市教育委員会が実態把握と県の天然記念物申請を目的に、神戸大学教養部宮田澄男教授に現地調査を依頼。行財政の支援が必要だと確認される。

昭和 46 年　1971 年　2 月

理科部の活動が県に評価され、西宮市教育長表彰をうける。

昭和 48 年　1973 年　6 月

中野の池周辺で突如宅地造成のための森林伐採が始まる。藤本教諭の市教委への訴えや今西議員の市議会での要望、新聞社の援助により対策が講じられる。市教委が再び神戸大学教養部宮田澄男教授に現地調査を依頼。

昭和 49 年　1974 年　3 月～7 月

西宮市文化財審議会の要請で、神戸女学院大学矢野悟道教授による生息地の植生調査が行われる。5 月プール横に飼育池が完成、6 月に市教委から「保護増殖業務」が委託される。7 月、宮田澄男教授と矢野悟道教授による生息地の調査が行われる。

昭和 50 年　1975 年　7 月

学校裏山の H 池に放池を開始。

昭和 52 年　1977 年　6 月

学校飼育池付近で 9 個の卵塊を確認。下山口の光明寺境内の池に 200 匹放置する。

昭和 55 年　1980 年　3 月

市教委からモリアオガエルのパンフレットが発行される。

昭和 61 年　1986 年　2 月

2 回目の西宮市教育長表彰をうける。

昭和 43 年上空写真

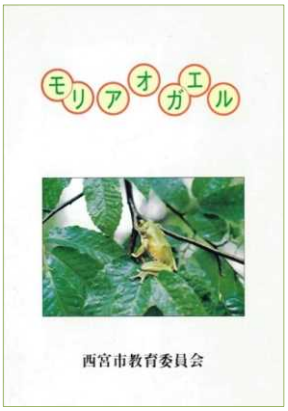
藤本先生と理科部員

飼育池の前で

かつての校門（現通用門）

理科室での飼育

飼育池にて成体の観察

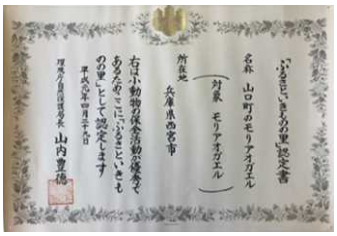


昭和 55 年発行のリーフレット

宮田教授と池の調査

飼育池の様子（中央はタンク）

発信器を取り付けての調査



ふるさといきものの里　認定書

関西テレビの取材を受ける

平成3年　飼育小屋完成

飼育小屋完成当時の上空写真

平成17年　30年史の発行

新しい小屋での飼育活動

朝日放送の取材を受ける

表彰状

西宮市立山口中学校理科部殿

貴部は多年にわたり地域の環境保全につとめられその功績は誠に顕著なものがあります

よって環境月間にあたりこれを表彰します

平成十八年六月十二日

環境大臣　小池百合子

寺田先生・小田切君・森校長と

大臣賞受賞後の学校での報告会

昭和 63 年	1988 年	6 月～7 月

新しい生息地を求めて、船坂の X･Y 池に放池開始。関西テレビの取材を受ける。

平成元年	1989 年	4 月

改築工事で飼育池が撤去され、理科室前の踊り場で飼育継続。環境庁から「ふるさといきものの里（モリアオガエル）」に認定される。

平成 2 年	1990 年	6 月

新校舎が完成し、新しい理科室での飼育を行う。体育館、プールなどの工事が始まる。

平成 3 年	1991 年	6 月

兵庫県知事より「環境保全功労者（モリアオガエル保護飼育）」として表彰される。グラウンドプール横に新しい「飼育小屋」が完成し、新たな飼育活動が始まる。

平成 4 年	1992 年	7 月

PTA の協力で、名来地区の池に放池する。（3 年間継続）阪神高速道路公団によるモリアオガエル保存調査が実施される。

平成 5 年	1993 年	5 月

船坂地区の X 池で卵塊を 1 個確認し、移植が成功する。

平成 15 年	2003 年	3 月

阪神高速道路北神戸線（有馬―山口間）が開通し、さらに東方向への工事が継続される。

平成 16 年	2004 年	6 月

船坂地区で W 池を発見。3 個の卵塊を発見する。朝日放送の取材を受ける。

平成 17 年	2005 年	3 月

30 年間の活動を記録した「山口町のモリアオガエル　西宮市立山口中学校による 30 年間の飼育記録」が西宮市教育委員会から発行される。

平成 18 年	2006 年	6 月

「地域環境保全功労者」として理科部が環境大臣賞を受賞する。東京の表彰式に出席し、当時環境大臣であった小池百合子大臣から表彰される。

平成 19 年　2007 年　6 月

有馬温泉へのバイパス工事で M 池が削られ、樹木が伐採される。また、近くの資材置き場拡張のためＺ池の斜面が削られ、卵塊数が激減する。

平成 20 年　2008 年　4 月

活動 40 周年を迎える。中野のＫ池を中心に干上がり、放池できない事例が増加する。

平成 25 年　2013 年　6 月

旧船坂小学校のプールでモリアオガエルの卵塊が発見される。

平成 27 年　2015 年　6 月

Ｆ（I）池が土砂で埋まり、池の存続が危ぶまれる。ななくさ育成園にあるプールで卵塊が確認されるなど、山口中学校区で多数卵塊が確認される。

平成 28 年　2016 年　3 月

部員減少のため、理科部の廃止が決定される。

平成 29 年　2017 年　4 月

理科部の廃部に伴い、山口中学校教職員を中心とする「モリアオガエル保存会」が発足される。委託業務を継続し、最後の理科部員が活動を継続する。

平成 30 年　2018 年　7 月

保護活動 50 周年を迎える。保存会ボランティアとして 15 名の生徒が参加して、理科部の生徒と共に保護飼育活動の継承が行われる。

令和元年　2019 年　11 月

50 周年集会を開き、本校元教諭の藤本一幸先生、上田浩司先生から講話をいただく。

3 回目の西宮市教育長表彰を受ける。

令和 2 年　2020 年　6 月～9 月

野生生物保護功労者表彰「文部科学大臣賞」を受賞するも、新型コロナウィルスの感染拡大の影響で、本校にて兵庫県の伝達表彰式を行う。その後、市長表敬訪問を行う。

博報財団「博報賞奨励賞」を受賞。兵庫県教育委員会「グリーンスクール表彰」を受賞。ひょうご環境創造協会からの助成が決定する。新聞各紙から多数取材を受ける。

平成19年　創立60周年頃の上空写真

バイパスで削られたM池

斜面が削られたZ池

平成29年　創立70周年の上空写真

初代保存会ボランティア

ボランティアによる初の卵塊採集

50周年集会での発表

さくらFMによる録音取材

賞状

兵庫県西宮市立
山口中学校殿

あなたがたは環境省及び公益財団法人日本鳥類保護連盟主催第七十四回愛鳥週間全国野鳥保護のつどいにおいて野生生物保護のための尽力が顕著であると認められました。ここにこれを賞します

令和二年五月十日

文部科学大臣
萩生田光一

文部科学大臣賞を持って市長表敬訪問

記念碑の建立

CONTENTS

年代記 …… 2

1 ご挨拶 …… 6

2 祝　辞 …… 9

3 活動５０周年に寄せて …… 15

4 保存会の発足とボランティア …… 27
保存会の発足
ボランティアの活躍

5 モリアオガエルの生態 …… 35
絶滅危惧種のモリアオガエル
モリアオガエルの１年

6 飼育の経緯 …… 41
保護飼育の黎明期
飼育方法の変化

7 保存池の概要と近況 …… 45
モリアオガエルが棲む池

8 モリアオガエルの郷構想 …… 61
次の 50 年を見通す

9 資料編 …… 67
受賞歴・新聞掲載歴・成果物
変遷一覧表

ご 挨 拶

モリアオガエル保護活動半世紀（50 周年）を迎えて

西宮市立山口中学校モリアオガエル保存会会長
西宮市立山口中学校第 22 代校長
池上（いけがみ）　達（たつ）

我が故郷　山口中

モリアオガエル保護活動が半世紀50年を迎えられたことは，私にとって格別に感慨深いものがあります。私が本校に新任の音楽教師として着任したのは，昭和61年(1986年)4月でした。西宮市は私の故郷尼崎とは違って海と山にかこまれ，自然豊かなことは脳裏にありましたが、尼崎生まれ尼崎育ちの私は，学校名はおろか、所在地をも知りませんでした。辞令式後、市役所から自宅に戻り，自家用車で本校に向かいました。初めて行く場所でもあったので，1 時間以上走っても到着しませんでした。路はだんだん山道になり，坂を上がって少しすると，下山口のバス停を見つけました。このあたりかなと思いながら車を走らせていると、万代橋の横断歩道に山口中学校の名前が入った箱が目につきました。橋を渡ってすぐが当時の正門であり，今は通用門になっています。その正門の奥に，我が“西宮市立山口中学校”の学び舎が目に飛び込んできました。今でもあの日の光景を鮮明に覚えています。

当時は周りを山や田畑に囲まれ，校庭には桜の木をはじめとするたくさんの木々が生い茂っていました。私が車を降りた瞬間に春の山の息吹が私を包み込みました。田畑ののどかな風景，清流有馬川のせせらぎ，ツバメ等の野鳥が飛び交い，タンポポがあちこちに咲いている様は，私の心に幼い日の思い出，昔懐かしい気持ちを蘇らせました。新任校である我が“西宮市立山口中学校”が私の職場となる喜びと，そこで出会った山口の子達の出会いが，今の私の原点であることは間違いありません。このときから本校は，私の第2の故郷となったのです。自然豊かな山口町，春は桜，夏には蛍が飛び交い，秋は紅葉，冬は雪景色と自然豊かな場所です。

しかし，私が在籍した昭和61年から平成6年は，開発の波が押し寄せ，めまぐるしく山口町が変わりゆく時代でした。校舎の裏山が削られ，田畑がなくなり，昔の風景は一変しました。生徒数が増えた学校は，増改築工事が始まって大きく変容しました。しかし，発展は人間にとって無くてはならないこと。学校が新しく大きくなることは学校にとっても嬉しいことに間違いありません。

歴史を重ねた平成29年度，山口中学校は創立70周年を迎えました。また新しい時代の幕開けの年，令和元年度の歴史の1ページに，モリアオガエル保護活動50周年を迎えられたことは，誠に感慨深いことであります。昭和44年当時の理科部顧問であられる，藤本一幸先生をはじめ，歴代の理科部顧問の先生方，理科部OB諸氏の思いの継承をしていく責務を重く受け止めています。

そんな中，令和2年2月13日 西宮市教育委員会からモリアオガエル保護活動50年“教育長表彰”，令和2年5月10日，環境省公益財団法人日本鳥類保護連盟主催 令和2年度 愛鳥週間野生生物保護功労者表彰“文部科学大臣賞受賞”させていただきました。

賞状

兵庫県西宮市立 山口中学校 殿

あなたがたは環境省及び公益財団法人日本鳥類保護連盟主催第七十四回愛鳥週間全国野鳥保護のつどいにおいて野生生物保護のための尽力が顕著であると認められました。ここにこれを賞します

令和二年五月十日

文部科学大臣 萩生田光一

また，令和2年11月13日，令和2年度 博報児童教育振興会 博報財団 “博報賞奨励賞”を受賞。令和2年度 兵庫県教育委員会 環境教育実践発表大会“グリーンスクール表彰”を受けることができました。これらの受賞もまさしく50年，半世紀に渡る地道な取り組みを続けてきた証です。

本校の教育は、学校教育目標を「自ら学び，確かな学力を身につけ，豊かな心でたくましく生きる生徒の育成」と設定し，校訓「自主・友愛・希望」の精神を具現化し，その主体性を育む活動で特化したボランティア活動が，モリアオガエルの保護活動です。

昭和44年（1969年）より理科部による絶滅危惧種のモリアオガエルの保護活動を行って参りました。その歴史はご存じの通り，昭和43年（1966年），本校生徒が見慣れないカエルの死骸を見つけたことに始まります。その死骸を当時理科部顧問である藤本先生に見せたところ，モリアオガエルという珍しいカエルであることがわかりました。昭和44年（1969年）理科部の調査によって，本校校区、西宮市山口町中野地区の池で卵塊を発見し，モリアオガエルの生息を確認致しました。そこで，本校理科部が環境保全を目的に，絶滅危惧種とされるモリアオガエルの保護活動を始めることとなりました。その功績が認められ，平成18年（2009年）には「環境大臣賞」を受賞致しました。3年前，部員減少などで理科部が廃部となってしまいましたが，平成29年度よりモリアオガエル保存会を発足し，ボランティアを募集。地域の方々にも参画していただき，共に献身的に保護活動を続けているところです。(当時男女11名，令和元年度は28名)。

この活動は令和元年(2019年)保護活動50周年を迎えました。

ご 挨 拶

これから未来へ

～モリアオガエルの郷～　構想

ボランティア活動のなかで，自分たちが地域のためにできることを，自分で考えて行動することで，生徒たちの主体性の育成と，生徒たちの自己有用感，自尊感情の高まりにつながっていると実感しています。とりわけ，モリアオガエルの保護活動を通してふるさと意識，母校愛・地域の誇りとなること，そして美しく住みよい街「やまぐち」が一層発展するよう願って止みません。「命」の重さと人と関わることの大切さ，人とのつながり，人のぬくもりにも気づくことができたことは，身近な他者への思いやりにつながっています。

また、ボランティア活動は生徒たちが地域の方とのふれあいを通じて，その良さに触れ，地域への思いを深め，人の温かさを感じることができる場となっています。未来を担う生徒たちを，学校・家庭・地域で連携し，ともに育てていくことがとても大切です。そしてそれを継続することが人権意識を高めることにもつながっています。

令和2年8月28日　モリアオガエル保護活動50年記念として，「モリアオガエルの石像」と「モリアオガエルの郷構想」の石碑を建立致しました。その思いとしては，“保護活動50年を迎え，この活動がますます地域に根ざしていくことを祈念し，次の50年を見据えた，「モリアオガエルの郷」構想を策定するとともに，ここに記念碑を建立する“と致しました。将来の夢に向かってたくましく歩んでいける，そんな生徒たちに成長してくれることを願いつつ今後も活動を進めていく所存です。

最後になりましたが、モリアオガエル保護活動にご理解，ご支援，ご指導を賜りました西宮市教育委員会，財団法人山口町徳風会，本校に在籍された理科担当教諭，理科部顧問教諭，理科部OB諸氏，そして，この活動に関わっていただいた全ての皆様。最後に，平成29年度4月，保存会の立ち上げの際，献身的に活動の推進に寄与していただいた本校主幹教諭 釜渕 章匡先生，元本校理科担当教諭 鈴木 祥弘先生（西宮市立苦楽園中学校）に心より御礼申し上げます。

祝

辞

祝 辞

保護増殖活動 50 周年記念によせて

西宮市長
石井 登志郎

このたび，山口中学校の皆様による，モリアオガエルの保存活動が 50 周年を迎えましたことに，心より感謝申し上げます。

本市は，北部に六甲山系の山並み，南部に大阪湾を望む自然海浜，またそれらをつなぐ武庫川や夙川等の豊かな自然に恵まれ，多様な動植物が生態系を構成しています。しかし，昨今，人間活動や開発，地球温暖化等の環境の変化による，自然や生態系への影響が懸念されております。こうした状況において，本市では「未来につなぐ生物多様性にしのみや戦略」を策定し，自然環境保全，生物多様性に向けた取り組みを進めているところでございます。

ここ山口地区におきましても，高速道路の建設や宅地開発が進み，自然環境が大きく変化してまいりました。そうした中で，50 年の長きに渡り，モリアオガエルの保存活動，並びにパネル展示等を通じた生息地保存の啓発活動に取り組まれておりますことは，とても意義深いものです。この 50 年を振り返ると，度重なる苦労があったことと思います。

しかし，この活動に携わることを通じ，歴代の山口中学校の皆様，そして地域の方々の間に，地域の自然環境保全への意識が脈々と受け継がれ，そのことが今日の自然豊かな山口地区の魅力につながっているものと存じます。

結びになりますが，モリアオガエルの保護に携わってこられました皆様の，これまでの活動に重ねてお礼申し上げますとともに，皆様の活動が，今後の本市の自然環境保全，生物多様性の取り組みの一翼を担うものと期待いたしております。

50 周年を祝って

西宮市教育長
重松　司郎

今私たちを取り巻く環境については，地球温暖化で熱波や洪水，そして干ばつや大型台風というさまざまな気候変動による災害が頻発している現状があります。本来，日本は南北に長く気候の幅も広く，起伏に富んだ地形を有し，生き物や生態系の種類が多く，生物多様なホットスポットといわれています。

しかし，地球環境の変化や開発などの人間活動によって，生き物の数が減り，絶滅危惧種が多数でてきています。そんな中，棲息地の森林などに人の手が入り環境が変化することで，日本固有種であるモリアオガエルも各地で棲息数を減らしています。

そんな状況にあって，昭和 43 年に山口地区でモリアオガエルの棲息が確認され，山口中学校の理科部で，郷土に暮らす生き物が生存し続けることを願って，その飼育を始めました。その後理科部は廃部になりましたが，「モリアオガエル保存会」にその意志は受け継がれ，モリアオガエル保存の活動が 50 周年を迎えることになったのは，本当にすばらしいことです。

これからも地域の自然を大切にしながら，この活動が続けられることを願うとともに，この活動が地域だけでなく西宮市の自然環境を守ることにも繋がっていますので，これからも多くの方々の活動への参加を願って，50 周年のお祝いの挨拶とします。

祝 辞

モリアオガエル保護活動 50 年によせて

西宮市教育委員会 文化財課課長
俵谷 和子

昭和 43 年の山口中学校生徒の発見からその存在が確認され，翌年から 50 年の長きにわたってモリアオガエル保護事業を続けてこられたことに敬意を表します。

私は，平成22年度より「モリアオガエル保護増殖事業」に関わらせていただいております。卵塊の採取に参加させていただときには，生き生きと活動に取り組む生徒のみなさん，また指導しておられる理科部顧問の先生の情熱を肌で感じました。

理科部から始まったこの活動は，平成29年に保存会が組織されたことで学校全体の活動として広がりを持ち，地域連携へも拡張していきました。今回の 50 周年という節目においても積極的に事業を展開され，その活動は益々活発になっています。

令和元年度には，保存会の協力を得て所管の郷土資料館において，展示・ウォーク・講座など50周年記念事業を開催させていただきました。モリアオガエルを通して，山口地域の歴史や文化を発信する機会を得られましたことを感謝いたします。

さて，今年は新型コロナウイルスの影響で学校が休校になりましたが，（カエルも）山口中学校の皆さんもいつもと変わらずで，当たり前のように保護活動を積み重ねられる姿に，この先も途絶えることなく続いていくことを確信いたしました。

文化財の宝庫である山口地域において，保護活動が地域を繋いで，保存会が益々ご発展されますことを心よりご祈念申し上げます。

50年前の大切な思い出

元西宮市議会議員
元兵庫県議会議員
今西　永兒

この度は西宮市立山口中学校モリアオガエル保存会の活動が，日本鳥類保護連盟の文部科学大臣賞を受賞された事を心からお祝い申し上げます。私もこの活動に関係させて頂いたことを誇りに思っています。もう50年も経つのですね。ところで，私事ですが，私は旧有馬郡山口村名来（現西宮市山口町名来）に生を受け，山口村が西宮市と合併した昭和26年4月1日に西宮市立山口幼稚園に入園致しました。その日は山口村民自慢の公智神社秋祭り（10月16日）と同じように神輿，ダンジリ，露店等が出て盛大な合併祝賀行事が行われました。私は各所に掲げてある「祝・西宮市合併」の横断幕を見て，子供ながらになんか今日はめでたい日なんやなぁ～と思った記憶があります。

さて，私は昭和46年4月の西宮市議会議員に全国最年少の25歳で当選させていただきましたが，その2年後の昭和48年6月14日付各新聞朝刊に「山口中学校生徒が保護するモリアオガエルピンチ」と大きな見出しと記事が掲載されました。私は早速，以前から知り合いであった同校の小倉力三校長を訪ね，山本準二教頭と保護繁殖活動をしておられた理科部顧問の藤本一幸教諭から詳しく説明を受けました。そして，同月21日の西宮市議会本会議にて同校のモリアオガエルについて質問をし，西宮市（辰馬龍雄市長，馬場順三建設局長）並びに西宮市教育委員会（刀禰館正也教育長）から答弁を得ました。（質問要旨）山口中学校が学校ぐるみで取り組んでいる，モリアオガエルの保護活動を，市と市教委は連携し積極的に支援すると共に，市の天然記念物に指定すべきと思うがどうか。（答弁要旨）モリアオガエルを山口中学校の生徒諸君が，教職員の指導の下に観察保護してきたことを高く評価している。市と市教委が手を携え，モリアオガエルの保護に対処していくと共に，市の天然記念物に指定することを検討する。以上のやり取りがあり，私も新人議員としてその答弁にホッとしたことを覚えています。私はこれからもモリアオガエルが愛情いっぱいで保護されていく事を願って止みません。

祝 辞

保護活動50周年のお祝い

西宮自然保護協会会長
能登　康夫

モリアオガエルの保護活動の50周年をお祝い申し上げます。

私が市内中学校の理科教師であって，西宮自然保護協会に入会した頃，藤本一幸先生から貴重なモリアオガエルの話をお聞きしました。また，当時から山口中学校の理科部は，モリアオガエルの保護活動で有名でした。秋に行われた市内の中学校の理科部を主とした活動の発表会（生徒理科研究発表会）では，山口中学校理科部はその年の各池の卵塊の数，採取して育てたオタマジャクシの数，各池に放流した数や，その年の特徴，経年変化などを細かく発表されていました。やがて山口町も開発されて，産卵に適した池が減り，新しい繁殖の池を探さなければならないなど保護活動にも課題もあると聞きました。当時，中学校では運動部に人が集まり，地味な印象なのか，理科部（科学部）は部員が少なくなっていきました。しかし，強い気持ちを持った部員の皆さんによって，その保護活動が50年にわたり，代々受け継がれてきたことは素晴らしいことです。地域の方々やいろいろな人の支えがあったことでしょう。積極的な保護活動が認められ，モリアオガエルの飼育設備が作られました。毎年適量の卵塊が採取されて，飼育され，池に戻される。この地道な活動を通して，豊かな自然が残る山口地区の貴重な財産の一つを守ってきたのです。

この50年間の活動に感謝するとともに，「保存会」の皆さまの支えにより，モリアオガエルの生育が末永く続くことを願っています。

活動50周年に寄せて

活動50周年に寄せて

モリアオガエル見つけたぞ!

藤本（ふじもと）　一幸（かずゆき）

昭和 43 年（1968 年）個体発見～
昭和49年（1974年）在籍

コロニーを作るコサギの巣から，数匹のヒナが見える理科室。日が経つにつれて，そのヒナが減っていくのを見ていた生徒たち。「親が運んでくる餌が少なくなる年には，ヒナ同士が争って，巣から放り出されるからだ」と教えてくれる。そのヒナを「育ててやろう」と理科室に持ち込み「カエルを餌にするんだ」と世話を始めた生徒たち。私もすっかり，仲間に引き込まれていったのだった。成長したコサギが，やがて窓から黙って飛び立っていく。何か淋しい思いだったのは私だけだったのだろうか。生徒たちは「巣立だ」と喜んでいたのであった。

そんな秋の日，1 人の生徒が，大きなカエルの死骸を持ち込んできた。「見たことのないカエルだ」突き始めた生徒たち。「モリアオガエルだと思う」と話しかけると，「卵を枝に産み付けるカエルだ」と応えてくれた生徒がいた。「山口にもいるんか」と話が盛り上がり，探検隊が生まれたのだった。

やがて夏が来て，「卵の塊を見つけた」の一報に，細い山道を駆け上る生徒たち。そこで，卵塊を見つけた喜びは最高潮。ところがその喜びは一転して，恐ろしい姿に直面。卵塊から流れ落ちる一筋の泡の流れ，その先に小さく動いているおたまじゃくし。それを待ち受けているイモリがひと呑みにする動き。周りには数匹のイモリが輪になって待ち受けているのだった。

思わず池に飛び込んだ生徒たちの手には，しっかりとイモリが捕まえられていた。イモリがいなくなった池では，無事だったオタマジャクシの泳ぐ姿が美しかったことを覚えている。両手に握りしめたイモリを「本流の有馬川に捨てよう」と帰路についた生徒たちの 1 日が思い出される。

ところが翌朝。池を訪れた私たちを驚かせたのは，数匹のイモリが群れていたことだった。「捨てたはずのイモリが，この小さな流れをさかのぼってきたのだ」と反省する中で，「こうなれば，学校でおたまじゃくしを育てるほかない」と意見が一致。破れかけた卵塊を大切に抱いて，理科室に持ち帰ったのだった。バットの中を泳ぎ出したオタマジャクシたちに，私たちは「何か良いことをしたのだ」と言う満足感で輝いていたのであった。

新聞社の素晴らしいニュース，地域の方

々の思いやり，県や市からの温かい援助に包まれた中で，この活動が後輩たちに引き継がれたことは，感謝の思いで一杯。さらにカエルが減ってきた最近，山口中学校に心強い保存会が結成されたことを聞き，心から手を合わせたい感謝の思い。

この山口中学校の生徒たちの，山口に住む生き物への優しさと，自分たちの思いで動き出す活動力の大きさに，強い自信と，誇りを持ってこれからの活動を切り開いてほしいとの願いを込めて，筆を次に譲ることとする。

新任の貴重な体験

住江（すみえ）（旧姓和田）　裕子（ゆうこ）

昭和 54 年（1979 年）～
昭和 57 年（1982 年）在籍

この時季（初夏）に散歩をしていると，ビワの木に目が留まります。すると，41年前の光景が浮かんできます。新任として赴任した2か月後，しびしびと雨降る蒸し暑い夜。宮坂先生と理科部の子ども達に連れられて中野の田の畦道へ。低木の間をくぐって少し開けた所に出ると，ビワの葉のもとでモリアオガエル達が産卵をしていました。透明感のあるきれいな緑色の雄カエル達が，激しい生命エネルギーをぶつけながら，跳び交い，雌と共に卵塊を作っていました。

その光景に，理科の教師とはいえ，都会育ちの私は，衝撃にも近い感動を覚えました。その後，微力な私が引き継ぎ，子ども達と一緒に，無我夢中で飼育しました。外池に移してからは，オタマジャクシを食べるために裏山から忍び寄り，首を鎌のように曲げて向かってくるヤマカカシと対決した思い出は忘れられません。また，子ども達の発表会では，その誇らしげな様子に嬉しく思ったものです。

すっかり変わった山口の町。高台から眺めた時，懐かしい思いと共に，美しい自然の中で生きる生命がいつまでも受け継がれていくことを願わずにはいられません。私も微力ながら，数年でもその一端を担うことが出来たことに感謝し，嬉しく思っています。

活動50周年に寄せて

モリアオガエルの保護繁殖活動に携わって

坂田（さかた）　稙一（さくいち）

昭和 57 年（1982 年）～
平成 6 年（1994 年）在籍

池の水面の上に伸び出した樹木の枝。その先端にソフトボール大の，白い綿のような塊を目にしたときの驚きは今でも忘れません。昭和 57 年の 5 月下旬のことでした。

これがモリアオガエルとの出会いでした。以来，私は理科部の顧問となり，顧問の坂本操先生，西村正史先生と理科部の生徒たちと，モリアオガエル保護繁殖活動に携わりました。自然と生き物に関わる活動なので，難しさと楽しさがありますが，魅力的な仕事でした。

生息池での卵塊探し，卵塊の採集は大変ですが，ワクワクしました。学校の飼育小屋には，備え付けの水槽に孵化したオタマジャクシが数多く生活しています。毎日の餌遣り，水替え，水温調節など，生徒たちは多忙ですが一生懸命です。そうして成長したオタマジャクシに後足が生えると，放池をします。生息池での放池はうれしさと淋しさを感じます。私はこの活動で生命の神秘に感動し，自然環境と生きものの間の微妙なバランス，生き物を育てる苦労と楽しみなどを学びました。充実した 12 年間でした。

一方では，この活動には PTA，地域の方々の多大な支援を忘れることができません。感謝の一言です。そして，モリアオガエル保護繁殖活動が，さらに発展することを祈念します。

モリアオガエル保護繁殖活動 50 周年おめでとうございます。

モリアオガエルの保護繁殖を通しての部活動

坂本（さかもと）　操（みさお）

昭和 58 年（1983 年）～
平成元年（1989 年）在籍

理科部の顧問は，新任の 1983（昭和58）年4月～1989（平成元）年3月末でした。毎年，中野地区やその周辺の池や山を何回も生徒と一緒に歩き周り，調査や研究を行いました。地域の方々にいろいろな情報を教えて頂き，生徒たちと調査をしているときも温かく見守って下さり，本当に感謝しました。

学校では，飼育時の方法等を少しずつ変え，オタマジャクシの数やバットの大きさ，卵塊への霧吹きの具合などに工夫を凝らしました。餌の種類や量を変え，肥育状況を調べたりと試行錯誤の繰り返しで，失敗も多かったですが，「双頭のオタマジャクシ」を見つけたり，生徒と楽しい時間を過ごせました。

周辺地域に開発の波が押し寄せ，生息エリアの減少が予想されたため，放池数を減らさなければ，個体数の過剰により，将来は減少していくと考えました。そのため，現放流池の数を少し絞りながら，生育可能な新天地に放池する試みを始めました。新たな生息可能地域の調査が始まり，船坂地域に新たな候補地をいくつか見つけ，放池を行うことができました。

市内の生徒研究発表も，OHP シートからカラースライドを使って，きれいな画像で多くの方にアピールするように変えました。教育長賞 1987 の受賞も生徒たちにとっては，とても良い刺激になりました。

テレビ取材の申し込みがあり，今までの経験から，天気予報を参考に，産卵場所と産卵日を推測し，近くに住んでいる生徒と一緒にモリアオガエルの産卵シーンの撮影取材を協力しました。（1988.6.28 関西テレビ 8ch で放映，「岩崎　真」カメラマン取材）

1988 年末あたりに，飼育池を新設する計画が決まり，現飼育池の設計の素案づくりにも関わることができました。

他にも理科部として，定期的に有馬川や船坂川の水質調査や生物調査も始め，友人の獣医によるハムスター解剖実習や日食観察会（1987.9.23 秋分の日）などの活動を通して，生徒とともに有意義な時間を過ごさせて頂いた理科部の活動でした。関わって頂いた皆さん，本当にありがとうございました。

活動50周年に寄せて

震災頃のモリアオガエル保存活動

西村（にしむら） 正史（まさし）

平成3年（1991年）～
平成7年（1995年）在籍

私は，平成3年の春に山口中学校に赴任し，平成7年までの5年間お世話になりました。私がモリアオガエルに出会ったのは，理科部の副顧問になった平成3年の春でした。当時の顧問は坂田猪一先生でした。モリアオガエルの飼育小屋ができた直後だったと思います。夏に，職員旅行があったのですが，坂田先生が，モリアオガエルのオタマジャクシのことを心配されて，参加をためらわれていました。私は，坂田先生にとって，モリアオガエルはそんなに大切なんだと思ったことをよく覚えています。

私が最後にモリアオガエルに関わったのは阪神・淡路大震災があった平成7年でした。山口中学校は，震災では直接の被害はなかったのですが，生徒と支援物資の仕分けをしたことを今もよく覚えています。当時の「われらのあゆみ」には，G池とY池に阪神・淡路大震災により池の底に小さな亀裂がある，との記述があります。生徒から「池が干上がったのは，池の底に亀裂ができたのではないか」という意見があったのを懐かしく思い出しました。今後もモリアオガエの保存活動が続きますことを応援しています。

理科部のみんなといっしょ…

上田（うえだ） 浩司（ひろし）

平成８年（1996年）～
平成16年（2004年）在籍

山口中学校に着任したのが 1996年，震災から一年が過ぎてはいたものの，市内には傷跡がたくさん残っていました。そんな中，『理科部の顧問を』と言われたとき，『私があのモリアオガエルを育てている理科部の顧問!?』とても緊張したことを今でも思い出します。対外的にレベルの高い活動をしていましたが，入部してきた生徒たちは，生物大好きなのんびりした古き良き時代の山口の子たちでした。自分の昔の姿を見ているようでした。

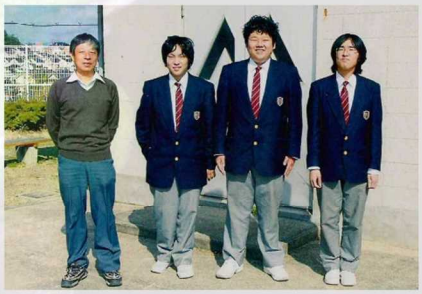
しかし理科部ではいろいろありました。卵塊を採ろうとして池に落ちた子，地域のおじいさんに怒鳴られた子，藤本先生にモリアオガエルのおもしろさやかわいさを30分以上かけて説明した子，ハラハラドキドキさせられました。保護繁殖活動のレベルの高さ，一方で山口の子の素直さ，かわいらしさ，などに私が魅了されました。

山口中学校を離れたのが2004年3月，8年間顧問をさせていただきました。今は浜脇中学校で理科の授業をしています。両生類なのに水中に卵を産まないモリアオガエルの話は，私にとってテッパンのネタです。浜脇中の生徒たちも『へぇ～すごいね!!』と目を輝かせます。理科部はなくなってしまいましたが，山口の子たちが少しでも残っていてくれたらいいのになって思います。

部員と共に

寺田（てらだ） 清彦（きよひこ）

平成 16 年（2004 年）～
平成 28 年（2016 年）在籍



2004年4月理科部顧問として12年間の私のオタマジャクシ飼育生活がスタートしました。当時在校生の説明だけでは解りづらい点がある中，坂田稽一先生が一日かけて中野・船坂地区の池を一か所ずつ説明しながら巡回してくださり，自分にこの大役がつとまるのか少々不安になったものです。

4月新入生の部員は3人と少なかったのですが，いずれも熱心に活動し，いろいろなアイデアを出し合い，モリアオガエルの飼育活動だけではなく，四季を通した有馬川の自然や水生生物のことなど，理科部として今までにはない数々の活動の基礎をつくってくれました。この3人のおかげで以降理科部としてのよい伝統が受け継がれていったように感じます。

船坂の池はバス停から距離があるので，調査や放流時には体力が必要とのことで，朝のランニングや4階の長い廊下で水を一杯入れたバケツの水をこぼさないようにリレーしたり，夏にはプールでトレーニングをしたり文化祭で劇を披露したりと，いろいろユニークな活動が行われていたこともなつかしく思い出されます。

これからもモリアオガエルが永遠に山口の地で繁栄することを願っています。

生き物と触れる意義

谷口（たにぐち） 幸子（さちこ）

平成 28 年（2016 年）～
平成 29 年（2017 年）在籍

私が生まれ育った鳥取県用瀬町は，自然豊かで，小学校の裏庭に小川が流れており，その法面に生えている植物にたくさんのモリアオガエルの卵塊がくっついていた。卵塊からオタマジャクシが落ちていき，アカハライモリがそれを待っているかのように捉えていた様子を幼少の頃に見て，自然とは厳しいものであるのだなと感じていた。

山口中学校で，理科部の顧問となり，モリアオガエルの保護増殖活動を担当することになったときには，大変そうだとは思わなかった。しかし，採取，餌やり，放流などの一連の活動を入学したての1年生にさせることは，かなりの根気が必要であった。普段，毎日の活動目標が希薄なことが課題であったが，5月にこの保護増殖活動を始めると，わからないなりに生徒が一生懸命世話をする様子が新鮮であった。また，山に入り，卵塊を見つけるたびに歓喜の声をあげ，楽しそうに採取する生徒の姿に，充実した時間であることがうかがえた。

オタマジャクシは順調にチキンフードを食べ，脚が出てくるカエルの姿を見て，みな気が緩んでいたのだと思う。そのころに，見回りを忘れることがあり，池から飛び出て，たくさんの小さなカエルが干からびて死んでいたことがあった。ようやく生を受けて成体と同じ形になれた小さなカエルの変わり果てた姿を見て，自分たちの責任感の欠如と気の緩みに，心を痛めた。

しかしこんな経験こそが，生き物への優しさを育んだり，命の重みを感じたりするきっかけになると信じている。

幼い頃から見る生き物，特に昆虫などの多くは万人受けしない生き物である。しかし，それらの命も，自然界で懸命に生きようとしいている命である。本校の庭で，羽が故意に取られ，それでも動いているセミが見つかった。とても心の痛む出来事であるが，それを伝えるのは難しいことだと思う。だからこそ，幼少期に生き物に触れることは非常に大きな意義があると思う。理科部の廃部が決まっていたので，カエルたちに「元気で生きろよ」と言って放流する姿がとても印象に残っている。

理科部から保存会へ

鈴木（すずき） 祥弘（よしひろ）

平成 29 年（2017 年）～
令和 2 年（2020 年）在籍

山口町におけるモリアオガエル保護活動 50 周年，おめでとうございます。私は，平成 29 年からの 3 年間，このモリアオガエルの保護活動に携わらせていただきました。その期間には，理科部の廃部，モリアオガエル保存会の発足など，大きな節目がありました。特に印象深いのは，私が赴任した平成 29 年度のことです。

私は理科の教諭であったこともあり，理科部の顧問を任されました。しかし，残念なことに，この年，秋の「文化活動発表会」での発表を最後に，理科部は廃部になることが決まっていたのです。「モリアオガエルの保護活動を通して，理科部で活動できて良かったと部員たちが思えるような部活動にしていこう」と意気込んで指導したことを覚えています。

ゴールデンウィークの頃から活動が始まり，初夏の放流まで，毎日活動が続きました。初めて卵塊を発見したときの驚き，卵塊からオタマジャクシが出てきたときの感動，成長していくオタマジャクシを見たときの喜び，足が生えそろってきたオタマジャクシを放流するときの寂しさなど，様々な経験が思い出されます。同時に，生き物の命の尊さをひしひしと感じた日々でした。今でもその活動は私の脳裏に鮮明に焼き付いています。

この 3 年間の保護活動に携わることができたことは，今となっては私の貴重な財産です。これからも「モリアオガエルの保護活動」の益々のご発展を願っています。

モリアオガエルに魅せられて

釜渕（かまぶち） 章匡（あきまさ）

平成 29 年（2017 年）～

私が山口中学校に赴任した年は，既に理科部の廃部が決定しており，今後の活動をどう継続させるかという問題に直面していました。あの時，池上校長の発案で保存会が発足していなければ，この記念誌を発行することはおろか，令和 2 年度に受賞した「文部科学大臣賞」を得ることもありませんでした。また，“ボランティア”として生徒を募集し，様々な活動に参加してもらう仕組みがなければ，山口町の自然度表す生物指標としてのモリアオガエルは，絶滅の一途をたどっていたことでしょう。

保存活動 50 周年という大きな節目の年に立ち会えたことや，活動を継続していくために，ボランティア生徒と一緒に汗水を流したこと。微力ながらこの尊い活動に携わることができて，私は本当に幸せでした。

モリアオガエルの生態に魅力を感じ，産卵期には朝晩，毎日のように池に出かけたことも忘れられません。誰かに教わったわけでもなく，樹上で後肢を巧みに操りながら卵塊を泡立てる技術。遥か昔の DNA が記憶する神秘の姿に魅了され，何枚もの写真や動画を撮りました。しかし，実はその姿に魅了させられたのは，歴代の先生方も同じであったことに，過去の資料や写真を整理して気付きました。私がしていたことは，先輩方の追体験であったのだということに，この冊子を編纂しながら教えてもらいました。

今後もこの活動が継続され，校訓に掲げられている生徒の「自主」を育てる旗頭となっていくことを願ってやみません。モリアオガエルを通して生物多様性を守り，地域の自然を愛する生徒がたくさん育まれることを願っています。

生命の尊さと儚さに触れて

杉本（すぎもと） 哲也（てつや）

令和２年（2020年）～

山口中学校に着任することが決まったとき，私が最初に思ったことは，「カエルを保護する活動をしている学校や」という印象でした。例年，生徒理科研究発表会で生徒の報告を聞いていたので，その印象がとても強かったです。しかし，実際に生徒の活動を目の前で見ていると，あの発表会の内容のうち，ほんの一部分しか私は理解できていなかったのだと感じました。着任前の私の印象では，カエルの卵を取ってきて，学校で孵化させて，元の池に戻す，ただそれだけでした。しかし実際の活動は，そのイメージよりももっと尊く，壮大な取り組みでした。

普段の生活では，決して足を踏み入れないような山の奥に足を運び，自分の身長よりも遥かに高い場所にある卵塊を見つけ，それを傷つけないように，落とさないように，湿った山奥の池周りで足下がぬかるんでバランスを崩しながらでも，自分の足や体が汚れてしまうことなど気にもとめずに，長い柄付きのはさみで掴み，そっとそっと手元まで持ってくる。学校に戻ってからも，卵塊が乾いてしまわないように毎日丁寧な水やりを忘れず，その卵塊からたくさんの幼生が孵化するのを待ちわびます。孵化の瞬間を目の当たりにしたときの感動は，言葉では形容することができません。そして，孵化してからも餌やりを欠かしません。しばらくして，いざ手足が生えてくると，とうとうお別れの時。満を持して，手塩にかけて育てた幼きモリアオガエルを，もとの池に放池します。「大きくなれよ」と願いを込めて。

ただ，これも自然の摂理で，すべての命が100%放池できるわけではないことや，放池されたモリアオガエルが，すべて無事に成体になれるわけでもありません。子どもたちは，その生命の尊さと儚さに触れ，授業や教科書では決して感じることのできない命の勉強をし，「また来年も」と，モリアオガエルの棲む森に思いを馳せるのです。一匹のカエルの命に魅了されるのです。もちろん，私もその一人です。この活動の歴史に，わずかでも関われたことを誇りに思っています。これからも，山口中学校とモリアオガエルを愛し，また，生命愛のある生徒とともに歩んでいけるように努めて参ります。モリアオガエルよ，永遠に。

保存会の発足とボランティア

保存会の発足とボランティア

保存会の発足

平成 29 年，部員の減少による理科部の廃止が決定していたことから，今後のモリアオガエル保護増殖活動の継続が危ぶまれた。生徒の委員会活動と

−理科部最後の卵塊採集−

して継続する案や，50年で終止符を打つことも検討される中，この年赴任した池上達校長を中心とした教職員メンバーによる「モリアオガエル保存会」が発足され，今後の活動については保存会が中心となって活動することになった。生徒はこの保存会にボランティアとして参加し，理科部が行っていた諸活動を進めていくことになった。山口中学

−ボランティア最初の卵塊採集−

校はボランティア活動が活発で，保存会ボランティアは，地域行事の支援を中心とするボランティア，震災復興を目的とした被災地支援のボランティアに続き，ボランティア活動の大きな一翼を担うことになった。

ボランティアの活躍

平成30年の 5 月上旬，全校生徒からボランティアを募ったところ，15 名の生徒が集まった。これまで半年の間閉ざされていた飼育小屋の「小屋開き」を行った後，5 月下旬の休日，初めての卵塊採集は，希望した 10 名のボランティア生徒と，元理科部の保護者 1 名，ダイハツ工業部品部から 1 名，引率の釜渕，鈴木教諭の合計 14 名で行った。

−船坂で見つけた卵塊−

船坂地区の W〜X の池を回り，7 個の卵塊を採集した後，飼育小屋での飼育が始まった。初めて見る卵塊の美しさや，生態の神秘性に魅了された生徒たちは，この後野生の生き物を育てる難し

さを思い知ることになる。

飼育活動の難しさ

毎朝・夕方の当番を決めて，生徒は飼育小屋に向かう。保湿のために，卵塊の表面にミネラルウォーターを霧吹きで吹き付けるためだ。1週間ほどすると卵塊の形が崩れ出し，中からまだ卵嚢（らんのう）を持ったままのオタマジャクシが，卵塊1つにつき200～400匹出てくる。最初のオタマジャクシが誕生した日を「孵化日」として，1～2日の間は何も与えず，卵塊下の水槽に準備されていた水質との適合を確認する。

孵化日3日目頃から，人間のベビーフード（伝統的にチキンライス味）を少しずつ与え，成長の度合いと水質が悪化しない量を与え続けるのに苦慮する。少しでも多い量を与えてしまうと，水槽が白濁し，水質の悪化でオタマジャクシの死亡率が上がってしまうからだ。

-ベビーフードを食べる幼生たち-

1ヶ月ほど経てば，オタマジャクシの後肢が先に生えてくるため，放池（ほうち，放流すること）するまでの間，水槽から脱出しないようにするために網を張る。鰓（えら）呼吸から肺呼吸に変わりたて

-網戸用ネットで覆う-

の幼いモリアオガエルが窒息死してしまわないように，発泡スチロールの「浮島」を水面に浮かべた。それでもすき間から脱出し，体表面の粘液がコンクリートに密着してしまい，そのままミイラ化してしまう個体が多くみられた。

苦労が報われる瞬間

約1ヶ月の飼育が終わり7月上旬になると，再度ボランティアの中から希望者を募り，元の池への放池が始まる。これまで育ててきたオタマジャクシとの別れの場面は，「また，大きくなって帰って来いよ」という惜別の念と，来年度また飼育を継続しようという新たな目標を自発させてくれる。放池後，飼育小屋で活躍してくれた上面フィルターやエアーポンプをきれいに洗い上げ，「小屋終い」

を済ませて来年まで飼育小屋は長い眠りにつく事になる。

-放池の瞬間（船坂のＶ池）-

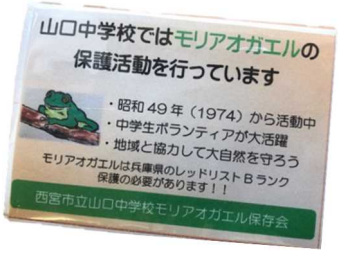
活動を報告・啓発

５月からの活動は７月で一区切りとなるが，ボランティアは，この３ヶ月間の振り返りを行い，秋の発表会への準備が始まる。また，今年は全世界で新型コロナウィルスの感染拡大によって中止されたが，例年８月上旬に行われる「絆まつり」では展示コーナーを設けている。

-絆まつりでティッシュ配り-

今年の活動内容を紹介するビデオを放映したり，池から連れてきたモリアオガエルの成体を展示したり，保護活動の理解と啓発を促すために，ポケットティッシュの無料配布を行なっている。

ボランティア活動が始まった平成30年は，放池の時期に4日間の集中豪雨



によって「特別警報」が発令され，生徒による活動が一時停止した。そのため，“陸の孤島”となってしまった山口中学校に，到着することができた数人の保存会の教師で，放池に出向かなくてはならない事態が起こった。まさに自然相手の活動を思い知らされる出来事であった。

-増水で入口が川になる中野の池-

10月下旬に三田市の「郷の音ホール」で行われる文化活動発表会では，数名の生徒が発表のために壇上に立ち，今年の活動の様子や保護活動の意義について，全校生徒や保護者の前

で啓発を行う。さらに11月に西宮市立西宮高等学校の小講堂で行われる「理科生徒研究発表会」での活動発表会を経て1年間の活動を終えることになる。

想いを繋ぐボランティア

保存会ボランティアが活躍することによって，理科部の時代とはちがう変化がもたらされることになった。まず，生徒のほとんどが部活動に所属し，ボランティア活動を兼ねている。飼育活動は当番制だが，天候などで部活動の予定が変

−卵塊を水槽上に吊す作業−

わり，毎回新しい顔ぶれが活動にはある。学年を超えた交流が行われるため，いつも新鮮な出会いがある。忙しい中，オタマジャクシのことを気にして，休日にもかかわらず小屋に行く生徒がたくさんいる。彼らの自発性がなければ命のバトンは繋げないのである。

次に，モリアオガエルの生態を学べることである。部員数が減り，オタマジャクシの放池が主だった目的になっていた活動は，池環境の保全や地域への啓発を行うことができるようになり，1年間の継続的な活動へと変わった。このような活動が評価され，この後各種表彰を受けることになる。

令和元年のできごと

元号が「平成」から「令和」に変わったこの年，保存会のボランティア活動は昨年の経験を生かして順調に進められた。また，保存会のメンバーで夜間の観察に出かけ，抱接中のペアを何度も目撃し，その映像を残すこともできた。観察をこまめに行ったことがきっかけで少しずつ生態がわかり，今後の飼育方法を検討する良いきっかけとなった。

−モリアオガエル50周年集会−

特に11月18日，本校で行われた「モリアオガエル50周年集会」では，浜脇中学校で主幹教諭の上田浩司先生（当時）と，理科部が保護増殖活動を

始めるきっかけを作った藤本一幸先生に講演をしていただいた。今の生徒や先生方が当時の出来事を，わかりやすくお話しいただき，活動が連綿と繋がっていることを再確認することができる会となった。

さらに，教育委員会から令和元年度の「教育長表彰」を受賞することになった。新聞などで紹介され，活動が大発展を迎える，“激動の令和2年”を迎えることになる。

表　彰　状

西宮市立山口中学校
モリアオガエル保存会 様

あなたがたは 先人の思いを受け継ぎ たゆまぬ努力によって50年の長きにわたりモリアオガエルの保護活動を継続されました　また 広報活動によって 今の尊さを伝え郷土愛を育むとともに 山口地域の美しい自然環境を守ることにも寄与されました
ここにその努力と功績をたたえ将来の発展を期待して表彰します

令和2年 2月13日
西宮市教育委員会
教育長 重松 司郎

激動の令和2年

令和2年（2020年）は，新型コロナウィルスの感染拡大で，前年度の3月から全国一斉に休校となり，6月の分散登校が可能になるまでの3ヶ月間は，生徒のボランティア活動ができなくなった。未曾有の国難に，誰もがこの先の生活を不安視する中，当然5月に募集していたボランティアも募れなくなった。そのため，感染防止策をとりながら，保存会のメンバー数人で，保存池の状況確認や，5月下旬から始まった卵塊採取が行われた。また，ひょうご環境創造協会に申請していた「環境保全創造活動支援助成」が承認され，資金の提供を受けることになった。老朽化した上面フィルターなどの交換を大幅に行い，飼育小屋の整備が進められた。

思い通りに活動ができない中，朗報が飛び込んできた。日本鳥類保護連盟が主催する，第74回愛鳥週間全国野鳥保護のつどいにおいて「文部科学大臣賞」を受賞することになった。

賞状

兵庫県西宮市立 山口中学校 殿

あなたがたは環境省及び公益財団法人日本鳥類保護連盟主催第七十四回愛鳥週間全国野鳥保護のつどいにおいて野生生物保護のための尽力が顕著であると認められましたここにこれを賞します

令和二年五月十日
文部科学大臣 萩生田光

これまでの50年間とボランティア活動が評価され，学校全体で受賞を喜び合った。例年であれば授賞式は東京で行われるが，新型コロナウィルスの感染拡大を防ぐ観点から，受賞式典は中止され，7月9日，兵庫県による伝達授賞式を，本校で行うことになった。

この朗報を皮切りに，取材や受賞が続くことになった。6月28日，さくら FMの番組「歴史と文化の散歩道」の取材を受け，活動の経緯や現在の様子について30分間放送された。学研出版の

-さくら FM の取材-

「教育ジャーナル」にはモリアオガエル保存会の活動が，地域の伝統文化伝承とともに掲載され，朝日・読売・神戸新聞の取材が相次いだ。7月27日には，文部科学大臣賞受賞の表敬訪問として，教育長・市長訪問を行った。さらに8

-石井市長へ表敬訪問-

月28日，これまでの50年の活動を継続させ，次の50年の活動を顕彰する目的で記念碑の建立を行った。「モリアオガエルの郷構想」の趣旨を石碑に彫り込み，除幕式当日は保護活動開始当時，市議会に保護増殖活動の必要性を投げかけ，ご尽力いただいた今西氏，記念碑作製にあたった㈱瀬戸内石材の磯江氏を招き，校内放送でその様子を紹介した。さくらやまなみバスからは，車内広告掲示の依頼があり，しばらくの間バス内にその様子が紹介されることとなった。

さらに11月13日，公益財団法人の博報堂教育財団より「博報賞　奨励賞」

賞状

兵庫県 西宮市立
山口中学校 モリアオガエル保存会殿

貴殿は教育実践において成果をあげています
今後より一層の活躍を期待し
第五十二回博報賞にて奨励賞を
贈ります

令和二年十一月十三日

公益財団法人博報堂教育財団
理事長 戸田 裕一

を受賞し，オンライン授賞式に参加した。その後，兵庫県から知らせがあり，モリアオガエル保存会の活動が評価されて，山口中学校が「グリーンスクール表彰」に選出され，12月22日，兵庫県公館で行われた式典に参加した。活動の様子は「第2回ひょうごユース eco フォーラム」のサイトに動画を掲載するに至った。

コロナ禍で予定の活動ができない場面が多くあったが，多方面から活動が評価され，今後の活動の励みとなった。

保存会の発足とボランティア

−職員室前でオタマジャクシの飼育−

−文化活動発表会（三田郷の音ホール）−

−文部科学大臣賞をボランティア全員で喜ぶ−

−記念碑の除幕式−

−記念碑とカエルの石像−

モリアオガエルの生態

モリアオガエルの生態

1 絶滅危惧種のモリアオガエル

モリアオガエル（森青蛙）Forest green tree frog

カエル目アオガエル科

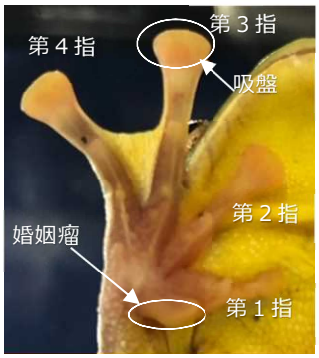
学名：Rhacophorus arboreus（意味：樹上棲の ボロをまとったもの）

体長：オス約 60mm，メス約 80mm

分布：本州（茨城県を除く），佐渡島

背面には緑色地に多くの不規則な褐色斑のある個体や，全く見られないものがある。山口町は，その両方が生息するため，両方の個体が見られる。主に木の上で暮らし，昭和 16 年（1941）に福島県の平伏沼，昭和 47 年に岩手県の大揚沼が国の天然記念物に指定された。兵庫県版レッドリストでは，B ランクに分類され，その特異な生活習性のために今後の生存が危ぶまれている。

2 形態



前肢は 4 本で，水かきが退化し，吸盤が発達しているため，どんな場所でもよじ登ることができる。オスの前足の内側には「婚姻瘤」と呼ばれるざらついた膨らみがあり，メスを抱接するのに役立つとともに，メスの体を締め付けて産卵を誘発する。メスは鳴かず，オスだけが喉にある鳴嚢を膨らませて，口を閉じた状態で，肺との間で空気を行き来させ「コロロ，コロロ」という高音の鳴き声でメスを呼ぶ。抱接が始まり，オス同士が警戒し出すと「グラアァ，グラアァ」と低音で鳴き，縄張り争いを始める。

後肢は5本で，水かきがあり，水中で泳ぐのに適している。前肢同様に吸盤が発達している。

皮膚表面は，周囲の環境に応じて「擬態」することができる。これは皮膚表面の「色素胞」が目から入ってきた情報に応じて変化するからであると考えられている。また，目の中で光を感じる細胞である「桿体細胞」を2種類もち，暗闇の中でも色の識別ができることが知られている。

目にはまぶたがあり，虹彩は赤銅色で，近縁種で混同されやすい「シュレーゲルアオガエル」の虹彩は黄色であるため容易に区別ができる。

夜行性であり，普段は木の上で生活をするため，ほとんど目撃されない。しかし，繁殖期には自分が生まれた池に戻り（カエルという名前の語源は，自分が生まれた池に必ず「帰る」ことから名づけられたという説がある），鳴き声でメスを呼び続ける。昼間は木の枝や葉の裏などに身を隠して伏せて寝ている。伏せる理由は，アゴの感覚器官で微細な振動を感知し，天敵から身を守るためだとされている。

雑食性で植物も食べるが，動物性タンパク質を好んで捕食する。口には歯がないため，捕らえた獲物はそのまま呑み込む。排泄された糞の中には，時々甲虫の羽が消化されずに，そのまま排泄されていることがある。11月頃から冬眠を始め，陸上では目撃されることはなくなる。

3 産卵から幼生まで

繁殖期となる5月下旬から8月上旬まで，日没後の保存池周辺では「コロロ，コロロ」という高音の心地よいオスの鳴き声が響き渡る。オスは樹上でメスを待ち受け，メスは池にやってくると池の中に体を沈め，しばらくの間，腹の皮膚から池の水を膀胱にためる。池の水と卵を抱えて，大きく膨らんだお腹になったメスは木をよじ登り，オス

モリアオガエルの生態

と遭遇する。オスはすかさずメスの背後に回り，前肢の婚姻瘤でメスの首あたりを押さえ込み“おんぶ”をする形になって木の枝の先の方に進む。天敵であるヤマカガシが襲ってこない木の先端に移動する頃には，複数のオスが周りを取り囲み，腹部の総排泄口から粘液を出す頃合いを見計らって，一斉にメスにしがみつく。この時，メスだけがぶら下がったオスたちと自分の全体重を支えており，産卵を始めた枝下が必ず水面上であることに驚かされる。

産卵は早くても午後8時頃から始まり，そのほとんどが深夜の時間帯に行われる。メスが出した粘液と卵に向けて，オスは精子をかけ，後肢でゆっくりとかき混ぜながら球体の卵塊（泡巣ともいう）を4～5時間をかけて作り上げる。

卵は直径 2.5mm ほどで，1つの卵塊に200～500個程度の卵が含まれている。産卵後1日目は白く，まるで卵白を泡立てた“メレンゲ状”だが，2日目以降は表面が乾燥すると黄色く変色し，厚さ1センチ程度の膜を作る。これは内部の卵を乾燥から守り，1週間後の孵化に向けて湿度を保つためだと考えられている。産卵は雨が降った翌日に多くみられ，降雨がモリアオガエルの産卵を活性づける要因であることがわかる。

1週間前後で卵塊内には幼生が孵化しており，次の降雨を待つ。幼生が出す粘液は卵塊を溶かす役割を持ち，ひとたび雨が降れば，卵塊は溶けるように引き延ばされ，幼生は次々に池の中に落ちていく。

この時，水中では天敵のアカハライモリなどが待ち構え，卵嚢を持ったままで泳ぎの遅い幼生は捕食に遭いやすい。そのため保存活動では，アカハライモリが捕食できない大きさにまで飼育することが目的となっている。

4 モリアオガエルの１年

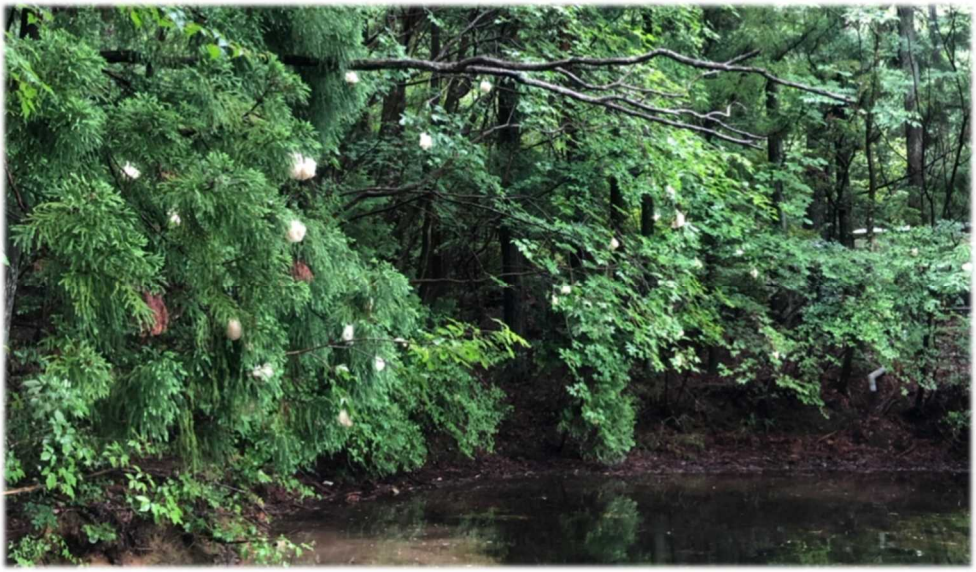
小さくても手足の吸盤でよじ登ります

前足も生えて・・・

足が生えてきたら放池の頃

２～３日ほどで卵黄はなくなり，餌を食べます

モリアオガエルの生態



一晩で 35 個の卵塊が産み付けられた船坂の池

乾燥が進み，枯死した卵塊

2 つの卵塊が重なりメスが絡まる

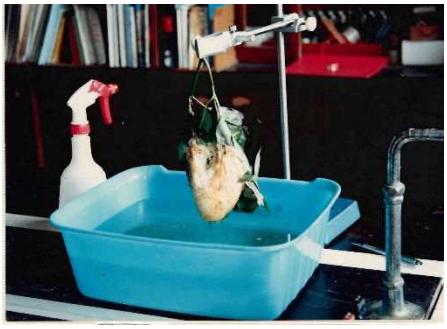
連なる卵塊（中野の池）

飼育の経緯

飼育の経緯

保護飼育の黎明期

昭和 43 年，理科部の生徒が飼育しようとしていた「サギ」の生き餌を探しモリアオガエルの死骸を発見。中野



-理科室で孵化を待つ（平成 2 年頃）-

の池を調査後，アカハライモリなどの捕食が著しいことから，アカハライモリの口に入らない大きさのオタマジャクシになるまで飼育することが保護増殖飼育の目的となる。

飼育開始時は様々なエサを用意していたようだが，ほうれん草を茹でたものが好みであることを突き止めて，

-ベビーフードのチキンライスを食べる-

昭和 49 年頃は植物性のエサが中心であった。昭和 58 年頃からドッグフードや，現在使用しているベビーフードが試行され，平成に入ってベビーフードが主流となる。

飼育方法の変化

卵塊から孵化するまでの飼育場所も，試験的に行われていた理科室から飼育池，平成 3 年からは飼育小屋

-平成元年まで活躍した飼育池-

へと変わり，今後は飼育池周辺を「ビオトープ」として整備し，再び屋外で飼育することが模索されている。

屋内飼育は，かつての屋外飼育に比べて天敵から保護する観点では優れているが，「乾燥」という課題に直面する。

朝夕の霧吹きを怠ると，たちまち鶏卵の卵白を泡立てたようなメレンゲ状の卵塊は黄色く収縮し，卵塊内の幼生死滅を招いてしまう。また，他の個

体よりも早く幼生になった個体が水槽を飛び出し，体表面の粘液が糊の役割をしてしまうことで，コンクリートにへばりついたまま枯死してしまう。

−枯死してしまった幼生−

現在これら課題を解決するには，ボランティアによるこまめな湿度維持管理作業と，水槽付近の観察を行う以外に方法がない。自然界の池では，朝晩の温度変化によって夜露や霧が発生し，自然に湿度が保たれているため，卵塊採取後１週間程度の屋内飼育における湿度管理が今後必須となる。

−ミネラルウォーターを霧吹きで吹き付ける−

卵塊に吹き付ける「水」にも変化が見られる。かつてはミネラルウォーターを購入して，霧吹きで吹き付けていたが，最近では水道水を水槽に一晩くみ置き，十分にカルキが抜けた水を使用している。

幼生となったモリアオガエルは，1ヶ月程度ベビーフードを，毎朝と夕方に給餌されながら大きくなる。しかし，ベビーフードを与えすぎてしまうと，ベビーフードに含まれるデンプン質をきっかけに微生物が繁殖し，すぐに水槽の水が白濁してしまう。水質の悪化は，

−白濁が始まった水槽−

幼生の呼吸困難や病気の発生を誘発し，死亡率を高めるため避けなければならない。しかし，幼生の食欲は毎日変化するため，1回の給餌の量は経験則で行われている。ベビーフードの給餌量は，ボランティア活動が始まってからは，水槽1つあたり，卵塊1つ

を飼育の場合，孵化してから 2～3 日後に薬さじの大きい方で 3 杯程度である。孵化が終わった卵塊には，残念ながら孵化できなかった卵が多く残るため，卵塊の泡ごと水槽の上に浮かべる。そうすると，数日で幼生が卵塊も卵も食べ尽くしてしまう。自然

－水槽水面に浮かぶ卵塊と幼生－

界では，卵塊をも貴重なタンパク源として利用していることが伺える。

放池（放流）の際にもこの「水」については細心の注意を払わなければならない。通常，放池する7月上旬から8月上旬における飼育小屋内の水槽の水温は，ほぼ室温と同じである。（24℃～30℃前後）しかし，放池する池の水温はそれよりも低く，船坂の池については10度以上も低い場合がある。そのため，急激な温度変化で幼生が死んでしまわないように，温度順化させる必要がある。約30分～1時間程度池の水にバケツごと触れさせゆっくりと池の水温に合わせていく。

－水温調節中の幼生－

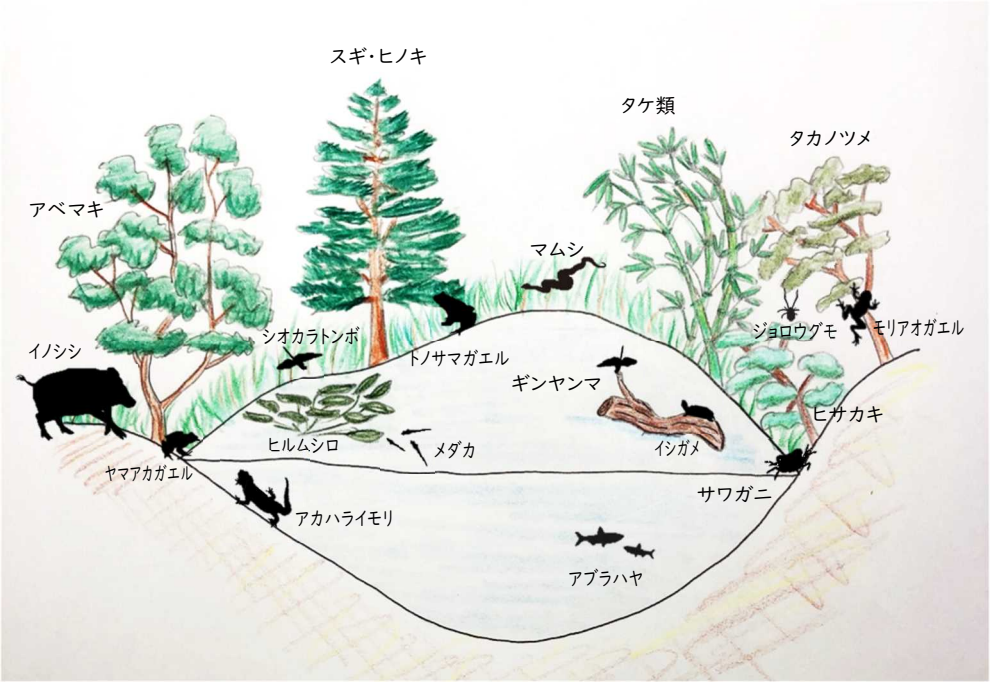
このように，飼育する際の「水」には細心の注意が必要である。これまで理科部，保存会ボランティアで行われてきた飼育方法を，口伝で途切れてしまわないように，令和2年からは「飼育ノート」を毎日記録することにした。こうして形にすることで，大切な経験則を次世代に引き継ぎ，より多くの幼生を放置できるようにすることが必要である。

－擬態するモリアオガエル－

保存池の概要と近況

保存池の概要と近況

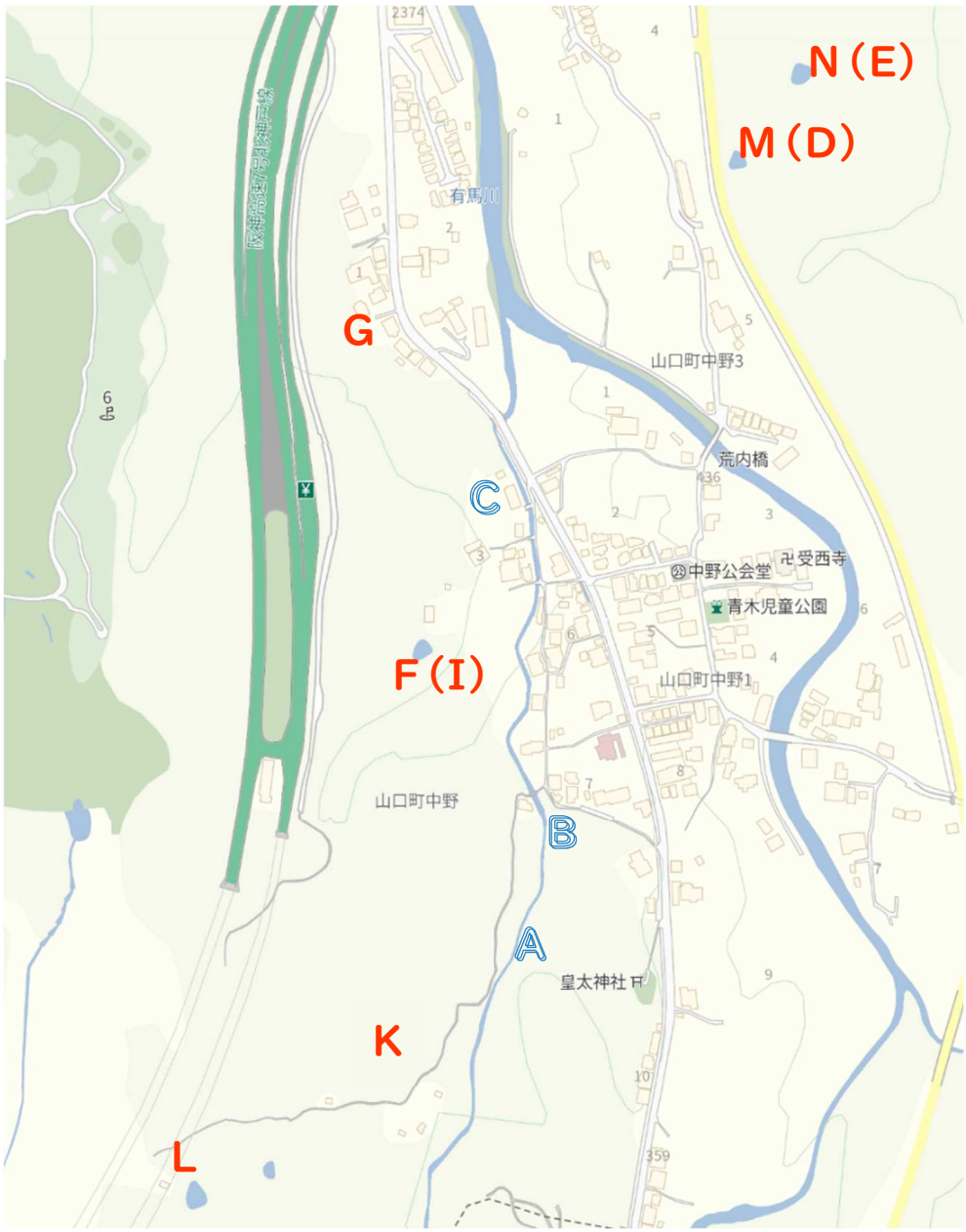
モリアオガエルが棲む池（代表例）



モリアオガエルが棲む池の環境は，地区によって様子が変わる。中野地区に残されている池は，主に田畑の灌漑用として残されていたが，近年放置され，管理がされていない場合が多い。そのため，ヒサカキやタケ・ササ類の進出が多く見られる。また，池内の生き物は比較的少なく，天敵がほとんどいない。船坂地区では，六甲山系の植生が多く残り，アベマキ，コナラなどにスギ，ヒノキが多く見られる。山頂からの流水で取り残されたアブラハヤが見られ，水深の浅いところではモリアオガエルの天敵であるアカハライモリが多く見られる。モリアオガエルは産卵時，葉が大きく，樹皮が平滑で登りやすい樹木を好むため，タカノツメやヒサカキ，エゴノキに多く産み付けるが，やむなくスギやタケ類に産み付ける様子が多く目撃されている。

中野地区の池

地図



許諾番号 PL2103 ©INCREMENT P CORP.

保存池の概要と近況

A池

平成 17 年（2005）頃の全景

令和 2 年（2020）乾燥している

昭和 44 年より卵塊が確認された池（泉）。昭和 51 年（1976）から数年にわたってアオキやモミジの補植を行っている。しかし，平成 3 年（1991）に卵塊を 1 個確認し，オタマジャクシを 300 匹放置したのを最後に産卵の確認はない。入口はフェンスで囲まれている。

B池

昭和 47 年（1973）から産卵が確認された池。開発地の一角にできた水たまり状の池で，水量が不安定であり，塵芥の投棄がみられた池。昭和 53 年（1978）からの 2 年間産卵がみられたが，その後は全く発見できていない。現在は草地化して水はなくなっている。

令和 2 年（2020）完全に草地化

C池（C地点）

平成 6 年（1994）頃の C 地点

耕作放棄地となり草地化

昭和 48 年（1973）より多少の増減を繰り返しながらも産卵が見られた地点。高台に作られた田圃で，水田になると産卵場所となる。西側の山際にあるビワの木を中心に卵塊が見られたが，平成 3 年(1991)にビワの木が伐採された後は樹種を選ばず産卵していた。降水量が多い年にはイモリが大量に発生し，昭和 58 年(1983)は，大量のイモリ駆除が行われた。平成 6 年(1994)を最後に卵塊が確認されなくなり，現在では田圃として使用されなくなったため草地化が進んでいる。

M 池（D 池）

平成 17 年（2005）頃の全景

ロープ先に地車の車輪が沈められていた

保存池の概要と近況

有馬温泉へのバイパス工事

池の一部が削られて再護岸

有馬温泉へのバイパス沿いに位置する。昭和 48 年から卵塊が確認され，小河川を堰き止めた灌漑用の池である。昭和 50 年代には定期的に低木の伐採が行われていた。平成 18 年（2006）に有馬温泉に向かうバイパス道路の工事が完了し，池の南西の一部が削られて再護岸されている。中野地区の池の中では比較的大型で，道路には近いが広葉樹や竹林に囲まれていることから，繁殖池としては最適な環境が揃っている。

主な植物

高木	アラカシ，コナラ，アベマキ，タカノツメ，エゴノキ，マルバアオダモ
低木	アセビ，ヒサカキ，モチツツジ，コバノミツバツツジ，ヒイラギ

N 池（E 池）

平成 18 年（2006）頃

平成 22 年（2010）頃

N 池よりも北西に位置し，西方向には長年の放置された棚田が 3 段残されている。昭和 50 年代は池の底までが見え，タニシや水草までが見えていたようだが，マダケなどの進出が著しく，池の半分以上を竹林が覆う。池の西側の竹は大きく水面に倒れ，手入れされず枯れた竹が水面を横たわる。流れ込み部には時折，近くの六甲カントリー倶楽部から流出したゴルフボールが土砂とともに流れ込んでいる。

主な植物

高木	アラカシ，コナラ，アベマキ，ヒノキ，エゴノキ，ネズミモチ
低木	アセビ，アオキ，ヒサカキ，コアジサイ，モチツツジ，ヒイラギ

F 池（I 池）

平成 16 年（2004）頃

平成 18 年（2006）頃

昭和 51 年（1976）に発見される。西側の山地から流れ出る小流を堰き止めたため池で，樹木の繁茂状況からも最適な池として多くの放池が行われてきた。棚田の頂上部にあり，電柵が常時設置されていることから人の行き来も少ない。平成 25 年（2013）から卵塊が発見されなくなり，現在はスゲ類が繁茂して草地化が進んでいる。

主な植物

高木	アラカシ，スギ，コナラ，ヤブツバキ
低木	モチツツジ，ヒイラギ

G 池

平成 16 年（2004）頃

最初にモリアオガエルの産卵が確認された池で，民家の裏に近接して所在する。平成 28 年から卵塊が確認されず，その後観察も行われなくなってしまっていたが，令和 2 年より観察が再開された。タケの進出が著しく，全く管理されなくなったために薮化が進んでいる。

主な植物

高木	アラカシ，スギ，コナラ，ヤブツバキ
低木	モチツツジ，ヒイラギ

全く管理されなくなり，周辺が薮化

保存池の概要と近況

H 池

山口中学校東にあった丘陵地の中にあった 2 か所の池。現在は住宅地として開発され，池は消滅している。

K 池

平成 20 年（2008）頃

令和 2 年（2020）頃

蛇谷川の小橋を渡り，5 分ほど歩くと分岐が現れ，右手に少し登ると見えてくる水たまり上の池。水量の変動が大きく，枯渇していることが多い。平成 25 年（2013）以降卵塊が発見されておらず，池周辺の管理が全くされていない。

L 池

平成 20 年（2008）頃

令和 2 年（2020）頃

蛇谷川の小橋を渡り，Ｋ池よりもさらに５分ほど歩くと湿地帯が現れる。その先を少し登ると見えてくる池である。水量が豊富で平成 24 年（2012）に発見された年に放置されたが，遠方なためその後観察や放池がなされていなかったが，令和２年より再開された。

名来地区

Ｐ・Ｑ池

平成４年（1992）に名来地区の移植先として，ＰＴＡ役員の協力で放池されたが，良い結果が得られなかったため，その後放池は行われていない。

金仙寺地区

Ｔ池

地図

許諾番号 PL2103 ©INCREMENT P CORP.

保存池の概要と近況

令和２年に卵塊が発見された。金仙寺地区の調整池で，民家が近接している。ネットフェンスに囲まれ，侵入できないように管理されているが，草地化が進んでいる。Ｎ池の林縁に属していることから，今後の観察が必要と思われる。

船坂地区

地図

許諾番号 PL2103 ©INCREMENT P CORP.

V池

令和２年（2020）頃

ボランティア活動が始まった平成 30 年，ボランティアで船坂地区に住む生徒の進言で発見された池である。西宮大谷線の道路に隣接し，池周囲が平坦なため観測しやすい。すぐ北斜面に広がる田畑の灌漑用として，比較的管理が行われている池である。

主な植物

高木	スギ，ヒノキ，タカノツメ，エゴノキ，コナラ，マルバアオダモ
低木	モチツツジ，コバノミツバツツジ，ヒイラギ，ヒサカキ

W池

平成 19 年（2007）頃　　令和２年（2020）頃

保存池の概要と近況

「船坂四ツ池」の最も上方に位置し，近年夏の増水期に多くの土砂が池中央に堆積するようになった。水深は浅く，ヒルムシロの間に多くのアカハライモリが潜んでいる。多くの灌木が低くたれ込んでいるため，卵塊を生みやすい環境が残っている。

主な植物

高木	スギ，タカノツメ，エゴノキ，ウラジロノキ，コナラ，アベマキ
低木	モチツツジ，ヒイラギ，ヒサカキ，ナツハゼ，ソヨゴ

X池

平成 19 年（2007）頃

令和 2 年（2020）頃

「船坂四ツ池」の上方から 2 番目の池である。水深が深く，表面にはアブラハヤが泳ぐ姿が多く見られる。外周は切り立った崖になってるため，取り付きの道から左右に数十メートル程度しか立ち入ることはできない。多くの場合，池の深部で卵塊が発見されるため，採集は困難である。

主な植物

高木	タカノツメ，エゴノキ，ウラジロノキ，コナラ，アベマキ
低木	モチツツジ，ヒイラギ，ヒサカキ，ナツハゼ，ソヨゴ

Ｙ池

平成 17 年（2005）頃

令和２年（2020）頃

「船坂四ツ池」の上方から３番目の池である。水深があり，下流の方は護岸が決壊し，その間から下のＺ池に水が流れ込んでいる。池の上方は花崗岩が風化して崩れ，比較的浅い流れ込みがあり，アカハライモリやヤマアカガエルなどが見られる。

主な植物

高木	タカノツメ，エゴノキ，ウラジロノキ，ヒノキ，アベマキ
低木	ヒイラギ，ヒサカキ，ナツハゼ，コバノミツバツツジ

Ｚ池

平成 22 年（2010）頃

令和２年（2020）頃

保存池の概要と近況

「船坂四ツ池」の最も下方の池である。この池の水を，建設資材置き場で利用するためポンプが設置されており，池に下る道の手前には小さな菜園や，手植えされた園芸植物が目立つ。水深は浅く，ヒルムシロが多く見られるとともに，アカハライモリも多く生息している。谷底に位置するため，アベマキなどの高木の林縁がさらに高いところにあり，この池では卵塊が 10m を超える場所に産み付けられていることが多い。

主な植物

高木	タカノツメ，エゴノキ，ウラジロノキ，ヒノキ，アベマキ
低木	ヒイラギ，ヒサカキ，モチツツジ，ヤツデ

-池の畔に咲くギンリョウソウ-

モリアオガエルの郷構想

モリアオガエルの郷構想

次の50年を見通す

50年を超えるこの活動が，途切れることなく後世に引き継がれていくためには，これまでの活動を振り返り，その価値を見いだす事が必要である。時代の潮流に合わせた計画を策定することで，山口中学校を，モリアオガエルの保存活動をきっかけとした「環境学習」の拠点として位置づける事が大切である。

−「石碑」の除幕式−

また，生徒がモリアオガエルを通して，主体的に環境問題を捉え，保存活動に関わる様々な情報発信を行うことで，湧き出る生徒自身の“郷土愛”を育むこと。この取り組みが持続可能で，開発的な次の50年を見通した「モリアオガエルの郷構想」の基盤となる。

この構想は，目標到達のような終着点を持つものではない。常に情勢を鑑みながら全体の内容や構成を組み立て直していくものである。それは，モリアオガエルの生態を脅かす事由が，時と共に様々な形となって変化しているからである。理科部による保存活動が始まった頃は，住宅地や高速道路の開発で生態系の崩壊が危ぶまれたが，昨今は別の様々な課題が山積している。

−「構想」を刻んだ石版−

環境指標としてのモリアオガエル

両生類であるモリアオガエルは，豊かな自然環境がなければ，生活の場を追われ，やがては死滅してしまう。カエルの語源が，生まれ故郷の池に“帰る”であるように，（諸説あり）豊かな森と水辺の環境がこれからも維

−船坂地区のモリアオガエル−

持され続けなければ産卵すらできなくなってしまう。

船坂地区の保存池は度重なる豪雨の影響で土砂が大量に流れ込み，徐々に水深が浅くなっている。また水底には多くの落ち葉が積み重なり湿地化している池もある。中野地区では枯死した竹が池の上に折り重なり，落ち葉とともに水を堰き止めたり，掻い掘りがされないため水深が浅くなっている。

市街地に住む私達にとって，遠景で眺めれば，今も変わらない豊かな森が，そこにいつまでもあるかのように思われる。しかし，ひとたび近景で池周辺を俯瞰すると，人との関わりを失ってしまった里山は荒廃し，池の存続が危ぶまれている。また，池を所有している地権者の理解や協力も不可欠である。

−竹林に覆われる中野地区の池−

私達がモリアオガエルの保存活動を継続できるのは，そこに，モリアオガエルが生息することのできる，豊かな森が存在することに他ならない。自然環境を推し量る“バロメーター”としてのモリアオガエルを，今後も注意深く見守っていく必要性が保存会に求められている。

外来生物の侵入

船坂地区のＶ池では毎年，特定外来生物である「ウシガエル」が目撃されている。そこで，令和２年に生態調査を行ったところ，20匹以上のウシガエルのオタマジャクシを捕獲・駆除した。現段階では，モリアオガエルの幼生を食べ尽くすほどの繁殖は見られないが，その旺盛な繁殖力で，やがてＶ池だけでなく，他の池に伝播し，

−Ｖ池で捕獲されたウシガエル−

生息範囲を拡げてしまうことが懸念される。かつてはアカハライモリが幼生の天敵であったのに対し新たな脅威がせまっている。また，中野地区を流れる有馬川中流域では，同じく特定外来生物である「オオキンケイギク」がちょうどモリアオガエルの産卵期に咲き誇る。現段階では生息を脅かす

−有馬川沿いのオオキンケイギク−

因果関係は認められていないが，毎年のように動植物の外来生物が報告されているため，今後は生態系を急速に改変してしまう元凶として，駆除などの対策が必要となることは間違いない。

環境学習の拠点として

保存池周辺で起こっている様々な問題を，普段我々は目の当たりにすることができない。また，池への関心が高まりすぎると，不法侵入者が増え，乱獲などの新たな問題が発生する。そのため，モリアオガエルの郷構想の中心施設として，現在の飼育小屋周辺を新たに整備し直し，ビオトープを創出する必要がある。池環境を学ぶ

−飼育小屋周辺のビオトープ候補地−

サテライトとして，地域にも開放し，地域の諸団体とも連携しながら，保存会ボランティアの活動を支えてもらう事も考慮したい。定期的に池での観察会や，増殖活動の報告活動を通して，地域の環境を学ぶ場をつくりたい。

飼育方法の向上・生態調査

新たに創出されたビオトープでは，原点回帰となる屋外飼育を行う。これは，コンクリートで囲まれた飼育小屋での屋内飼育との比較が容易にできるだけでなく，保存池での効果的な飼

育方法を見いだすきっかけにもなる。今後は屋内外の利点を生かし，さらに飼育方法が向上するように進めていきたい。

また，ビオトープでの飼育が可能となれば，保存池にまで足を運ばなくても，中学校内で誰もが容易にその観察を行うことができる。自然界での卵塊の変容を，マムシやイノシシなどの攻撃を気にせず観察することができることは，多くの方々にモリアオガエルの生態を知ってもらい，地域の環境問題を考えるきっかけとなる。

今後は地域や理科部卒業生，SDGs（エスディージーズ：国連加盟国が進める2030年を年限とする17の持続可能な開発目標）を進める企業や関係機関とも協力しながら，保存会活動のあるべき方向性を見いだしたい。

-SDGs 17の目標-

さらに，まだ知られていないモリアオガエルの生態について調査を行い，今後の池周辺環境のあり方についても，考察を深めていきたい。例えば，モ

-発信器を取り付ける（昭和 60 年頃）-

リアオガエルの成体は産卵期になると必ず自分の生まれ育った池に戻ってくるとされているが，生息範囲をどこまで広げているのかは，全くわかっていない。産卵期以外は樹上生活するため，成体の行動範囲もほとんどわかっていない。

最も重要なことは，放池したオタマジャクシのどれだけが生き残り，生息しているのかを知ることであり，これが可能であれば，年や池ごとの放池数の調整を行うことができる。

-ヤマアカガエル（船坂地区）-

モリアオガエルの郷構想

グリーンスクールフラッグ

グリーンスクールペナント

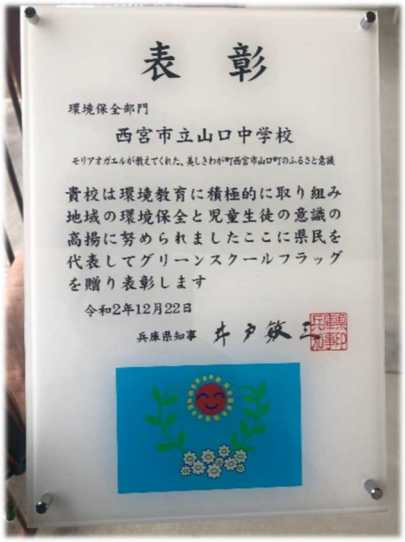


表　彰

環境保全部門

西宮市立山口中学校

モリアオガエルが教えてくれた、美しきわが町西宮市山口町のふるさと意識

貴校は環境教育に積極的に取り組み
地域の環境保全と児童生徒の意識の
高揚に努められましたここに県民を
代表してグリーンスクールフラッグ
を贈り表彰します

令和2年12月22日

兵庫県知事　井戸敏三

グリーンスクール表彰盾

資料編

資 料 編

受賞歴

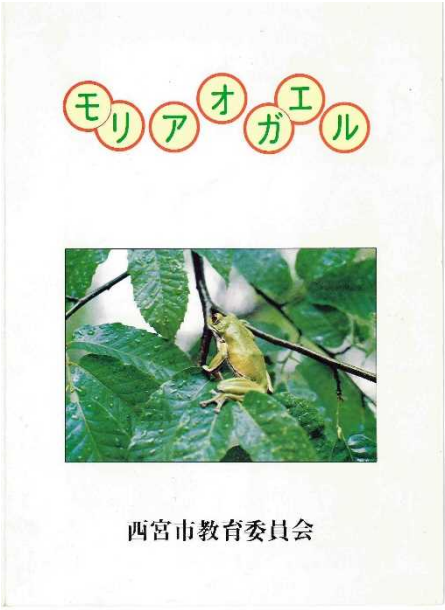
昭和 46 年（1971） 西宮市 教育委員会所管表彰
昭和 61 年（1986） 西宮市 教育委員会所管表彰
平成 3 年（1991） 兵庫県 環境保全功労者表彰
平成 10 年（1998） 環境庁 ふるさといきものの里（モリアオガエル）認定
平成 18 年（2006） 環境庁 地域環境保全功労者賞 「環境大臣賞」
令和 元 年（2019） 西宮市 教育委員会教育長表彰
令和 2 年（2020） 日本鳥類保護連盟 野生生物保護功労者表彰
「文部科学大臣賞」
博報堂教育財団 第 51 回博報賞 奨励賞
兵庫県 令和 2 年度グリーンスクール表彰

新聞掲載歴

昭和 45 年（1970） 毎日新聞 六甲にモリアオガエル 卵みつけ、かえす
昭和 47 年（1972） 神戸新聞 阪神間唯一の生息地に人工フ化 自然に戻す
朝日新聞 モリアオガエルを守ろう 卵を採集 学校でふ化
毎日新聞 自然破壊のバロメーター「ボクらの手で守ろう」
昭和 48 年（1973） 読売新聞 校庭の池で 養殖を
毎日新聞 モリアオガエル フ化に歓声上がる
早急に対策たてる 市長 モリアオガエルで答弁
月曜評論 カエルに問われる
開発進めば絶滅だ 西宮のモリアオガエル
読売新聞 環境破壊でピンチ 生息地を調べる
昭和 49 年（1974） 読売新聞 モリアオガエル 保護育成 報われた労苦 5 年
昭和 51 年（1976） 朝日新聞 育て モリアオガエル 今年も産卵
昭和 52 年（1977） 読売新聞 モリアオガエル保護作戦
昭和 54 年（1979） 神戸新聞 モリアオガエル 生命の神秘
昭和 56 年（1981） 神戸新聞 雨の夜にラブコール モリアオガエル産卵

平成 18 年（2006）	神戸新聞	モリアオガエル守り 30 年 「環境大臣賞」を受賞
	産経新聞	山口中理科部に大臣賞
令和　元年（2019）	神戸新聞	山口中学 保護活動 50 年
	朝日新聞	モリアオガエル 生徒ら守り 50 年
令和　2 年（2020）	読売新聞	西宮・山口中 文科大臣賞 モリアオガエル保護
		モリアオガエルの卵採取
		オタマジャクシ 元の池へ
	朝日新聞	モリアオガエル 保護続け半世紀
	神戸新聞	西宮・山口中は奨励賞
		第 51 回「博報賞」奨励賞 受賞

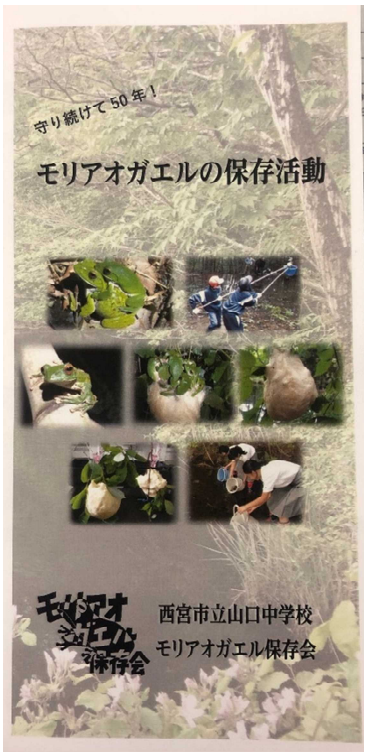
成果物



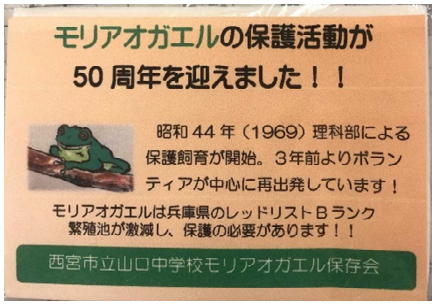
昭和 55 年 リーフレット

平成 17 年 30 周年記念誌

資 料 編



令和元年 リーフレット



啓発活動ティッシュ

記念石像 モリアオガエル

記念石版 表

記念石版 裏

参考文献

・山口町のモリアオガエル　西宮市立山口中学校による３０年間の飼育記録
　西宮市教育委員会

・兵庫の貴重な自然　兵庫県版レッドデータブック 2017　平成 29 年３月発行
　編集　兵庫県農政環境部環境創造局自然環境課
　公益財団法人ひょうご環境創造協会

・週刊日本の天然記念物０７　モリアオガエル　岩本　敏　2002.8.1 発行
　小学館

・減っているってほんと？　日本カエル探検記　関　慎太郎
　少年写真新聞社

・科学のアルバム　モリアオガエル　増田　戻樹
　あかね書房

西宮市立山口中学校　理科部・モリアオガエル保存会
活動５０周年記念誌

令和３年３月発行

編集・発行　西宮市立山口中学校モリアオガエル保存会
〒６５１－１４２１
兵庫県西宮市山口町上山口２－３－４３
ＴＥＬ　078－904－0477
ＦＡＸ　078－903－5621

西宮市立山口中学校　理科部・モリアオガエル保存会　年

西暦	年数	元号	主な出来事	担当教諭	上山口・下山口					名来		船坂														金仙寺			合計		
					学校				光明寺			大谷線			堀田組			堀田組			堀田組			堀田組			住宅街					
					住宅街	飼育池			池	池		池			池			池			池			池			調整池					
					H	体育館横				P	Q	V			W（X）			X（Y）			Y			Z			T					
					卵塊	卵塊	採卵	放池	放池	放池	放池	卵塊	採卵	放池	卵塊	採卵	放池	卵塊	採卵	放池	卵塊	採卵	放池	卵塊	採卵	放池	卵塊	採卵	放池	卵塊	採卵	放池
1969	1	昭和44年	保護飼育開始（飼育・放池）	藤本　一幸																										3	0	0
1970	2	昭和45年	市教委が神戸大宮田澄男氏に調査依頼	藤本　一幸																										0	0	0
1971	3	昭和46年	西宮市教育委員会所管表彰	藤本　一幸																										0	0	0
1972	4	昭和47年		藤本　一幸																										15	0	0
1973	5	昭和48年	開発事業者への説明会	藤本　一幸																										16	0	0
1974	6	昭和49年	飼育池完成・業務委託開始・神戸女学院矢野悟道氏調査	宮阪　敏男																										7	4	936
1975	7	昭和50年	A池周辺で開発計画が立案される・H池放池開始	宮阪　敏男																										10	1	315
1976	8	昭和51年	オタマジャクシ大量死発生・N・F池発見	宮阪　敏男																										27	2	225
1977	9	昭和52年	神戸大宮田澄男氏に飼育指導を受ける	宮阪　敏男		9			200																					49	4	600
1978	10	昭和53年	10周年	宮阪　敏男		3			270																					24	2	920
1979	11	昭和54年	新聞紹介	住江（和田）裕子		1			300																					27	2	1,500
1980	12	昭和55年	パンフレット発行（市教委）	住江（和田）裕子				200	150																					39	3	1,370
1981	13	昭和56年		住江（和田）裕子				1000																						30	11	2,200
1982	14	昭和57年		坂田　雅一																										22	9	2,060
1983	15	昭和58年		坂田　雅一　坂本　操		2		500																						32	11	3,600
1984	16	昭和59年		坂田　雅一　坂本　操		3		500																						41	10	4,100
1985	17	昭和60年	ゴルフ場・店舗開発の増加	坂田　雅一　坂本　操		2		1000																						50	28	4,500
1986	18	昭和61年	西宮市教育長表彰	坂田　雅一　坂本　操		5		200																						24	10	1,700
1987	19	昭和62年		坂田　雅一　坂本　操		1	1	200																						21	7	2,400
1988	20	昭和63年	船坂地区へ移植開始（X・Y池）・20周年	坂田　雅一　坂本　操		2	1													150			150							32	5	922
1989	21	平成元年	飼育池撤去・「ふるさといきものの里」認定	坂田　雅一　坂本　操		1														40			45							35	6	1,585
1990	22	平成2年	新校舎理科室で飼育	坂田　雅一																										34	11	1,702
1991	23	平成3年	飼育小屋完成・県知事より「環境保全功労者」表彰	坂田　雅一　西村　正史																										53	10	1,835
1992	24	平成4年	名来地区へ移植開始	坂田　雅一　西村　正史						487										250			250							85	7	2,520
1993	25	平成5年	船坂への移植成功	坂田　雅一　西村　正史						500								1		150			161							113	8	2,451
1994	26	平成6年		西村　正史														19	1	300	8		300							82	10	1,873
1995	27	平成7年		西村　正史						319	350							8	5	350	2	1	300							70	10	2,376
1996	28	平成8年		上田　浩司														8		420	4		453							77	10	2,014
1997	29	平成9年		上田　浩司						396								6		301	6		166							61	10	2,053
1998	30	平成10年	名来地区へ移植・30周年	上田　浩司						264								12		421										80	10	1,876
1999	31	平成11年	阪神高速道路北神戸線の工事が本格化	上田　浩司														11		488										92	12	1,961
2000	32	平成12年		上田　浩司														8		488										71	11	1,623
2001	33	平成13年		上田　浩司														8		358	6									68	10	1,693
2002	34	平成14年		上田　浩司														3			2									22	5	528
2003	35	平成15年	阪神高速道路北神戸線（有馬-山口）開通	上田　浩司														10			6									90	10	2,027
2004	36	平成16年	W池発見	寺田　清彦											3			4												47	8	1,090
2005	37	平成17年	30周年記録冊子発行	寺田　清彦											5	1		7		290	6	1								46	7	1,418
2006	38	平成18年	環境大臣賞受賞、新聞紹介	寺田　清彦											7	1		1			9	1	290	14	1					64	5	1,326
2007	39	平成19年		寺田　清彦											21	1	259	2		186	14	1		5						63	6	1,427
2008	40	平成20年	40周年	寺田　清彦											32	2		0		320	14			7	1					99	10	3,166
2009	41	平成21年		寺田　清彦											20	2		2			7	1	350	10		450				72	7	1,779
2010	42	平成22年		寺田　清彦											14	3		1			10	1	170	3		235				65	7	1,216
2011	43	平成23年		寺田　清彦											13			6			17	1	413	15	2	480				99	7	2,559
2012	44	平成24年		寺田　清彦											33			1		382	13	2	382	13						113	7	1,959
2013	45	平成25年		寺田　清彦											17	2		3			18	1	376	6		366				99	10	1,625
2014	46	平成26年		寺田　清彦											11			2			29	4	285	14	2	320				104	11	2,241
2015	47	平成27年		寺田　清彦																										61	8	1,310
2016	48	平成28年	理科部の廃部が決定	谷口　幸子											1															9	8	2,578
2017	49	平成29年	保存会発足・理科部生徒と活動	釜渕　章匡　鈴木　祥弘											5	5	2500	13	13	3600	0			8	8	2400				41	37	12,322
2018	50	平成30年	50周年・4日間の集中豪雨で放池が遅れる・ボランティアに15人	釜渕　章匡　鈴木　祥弘								28	7	2100	6	0		9	3	900	2	0		12	5	818				69	17	4,418
2019	51	令和元年	50周年集会・教育長表彰・ボランティアに28人	釜渕　章匡　鈴木　祥弘								25	6	1000	6	0	572	11	3	200	1	0		12	2	400				64	14	3,072
2020	52	令和2年	野生生物保護功労者表彰「文部科学大臣賞」　ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱに20人 博報賞　奨励賞受賞・兵庫県グリーンスクール表彰	釜渕　章匡　杉本　哲也								73	3	926	20	1	174	10	0	0	19	1	100	20	0	0	4	0	0	281	12	2,691
合　計					0	29	2	3600	920	1966	350	126	16	4026	214	18	3505	166	25	9594	193	15	4191	139	21	5469	4	0	0	2,898	430	101,662

西宮市立山口中学校　理科部・モリアオガエル保存会　年表

西暦	年数	元号	主な出来事	担当教諭		中野																										
						皇大神社・蛇谷川			蛇谷川		住宅横			バイパス			バイパス			田園			人家裏			蛇谷川			蛇谷川		
						泉			草地		草地			池			池			池			窪地			窪地			池		
						A			B		C			M（D）			N（E）			F（I）			G			K			L		
						卵塊	採卵	放池	卵塊	放池	卵塊	採卵	放池	卵塊	採卵	放池	卵塊	採卵	放池	卵塊	採卵	放池	卵塊	採卵	放池	卵塊	採卵	放池	卵塊	採卵	放池
1969	1	昭和44年	保護飼育開始（飼育・放池）	藤本　一幸		3																										
1970	2	昭和45年	市教委が神戸大宮田澄男氏に調査依頼	藤本　一幸																												
1971	3	昭和46年	西宮市教育委員会所管表彰	藤本　一幸																												
1972	4	昭和47年		藤本　一幸		10			4		1			0																		
1973	5	昭和48年	開発事業者への説明会	藤本　一幸		3			1		8			4																		
1974	6	昭和49年	飼育池完成・業務委託開始・神戸女学院矢野悟道氏調査	宮阪　敏男		5	4	351		69			516	1												1						
1975	7	昭和50年	A池周辺で開発計画が立案される・H池放池開始	宮阪　敏男		7	1	274		41	2			1																		
1976	8	昭和51年	オタマジャクシ大量死発生・N・F池発見	宮阪　敏男		15	1	225			12	1																				
1977	9	昭和52年	神戸大宮田澄男氏に飼育指導を受ける	宮阪　敏男		15	1	200			15	1	200	5	1								5	1								
1978	10	昭和53年	10周年	宮阪　敏男		8	1	350	1		9	1	150			150							3									
1979	11	昭和54年	新聞紹介	住江（和田）裕子		7	1	450	2		14	1	300			450							3									
1980	12	昭和55年	パンフレット発行（市教委）	住江（和田）裕子		5	1	520		300	26	1				200							8	1								
1981	13	昭和56年		住江（和田）裕子		7	2	450		250	13	9				500							10									
1982	14	昭和57年		坂田　雅一		8	6	870		420	6	3				770							8									
1983	15	昭和58年		坂田　雅一	坂本　操	8	6	1300		1300	10	4				500							12	1								
1984	16	昭和59年		坂田　雅一	坂本　操	4	1	1200		1200	7	3				1200							27	6								
1985	17	昭和60年	ゴルフ場・店舗開発の増加	坂田　雅一	坂本　操	4	3	1000		1000	6	3				1000				5			28	20		5	2	500				
1986	18	昭和61年	西宮市教育長表彰	坂田　雅一	坂本　操			500		500	6	3				500							13	7								
1987	19	昭和62年		坂田　雅一	坂本　操	1		100		800	2					800							17	6				500				
1988	20	昭和63年	船坂地区へ移植開始（X・Y池）・20周年	坂田　雅一	坂本　操	3		222		200	5					200							22	4								
1989	21	平成元年	飼育池撤去・「ふるさといきものの里」認定	坂田　雅一	坂本　操	1	1	150		750	8	1				600							25	4								
1990	22	平成2年	新校舎理科室で飼育	坂田　雅一		4	3	321		610	8	2				771							22	6								
1991	23	平成3年	飼育小屋完成・県知事より「環境保全功労者」表彰	坂田　雅一	西村　正史	1		300		700	9					835							43	10								
1992	24	平成4年	名来地区へ移植開始	坂田　雅一	西村　正史					500	6					400				4	3	312	51	2		24	2	321				
1993	25	平成5年	船坂への移植成功	坂田　雅一	西村　正史					461	2			41	2	451				3		228	36	2		30	4	500				
1994	26	平成6年		西村　正史						123	5			17		300						350	4	1		29	8	500				
1995	27	平成7年		西村　正史						307				29		200				7		250	7			17	4	300				
1996	28	平成8年		上田　浩司						109	7			28	5					8	3	638				22	2	394				
1997	29	平成9年		上田　浩司										20	5	414				8	2	376	6			15	3	400				
1998	30	平成10年	名来地区へ移植・30周年	上田　浩司										22		388				11	3	372	14	3		21	4	431				
1999	31	平成11年	阪神高速道路北神戸線の工事が本格化	上田　浩司										28		495				15	3	425	18	4		20	5	553				
2000	32	平成12年		上田　浩司										22		385				11	4	408	14	4		16	3	342				
2001	33	平成13年		上田　浩司										20		570				10	4	391	12	2		12	4	374				
2002	34	平成14年		上田　浩司										4		95				4	1	202	6	2		3	2	231				
2003	35	平成15年	阪神高速道路北神戸線（有馬-山口）開通	上田　浩司										15		685				16	3	721	26	3		17	4	621				
2004	36	平成16年	W池発見	寺田　清彦										15	2	550				13	2	540	8	2		4	2					
2005	37	平成17年	30周年記録冊子発行	寺田　清彦		0					0			16	2	696				7	2	432	5	1		0						
2006	38	平成18年	環境大臣賞受賞、新聞紹介	寺田　清彦										7		166	8		250	9	1	330	9	1	290	0						
2007	39	平成19年		寺田　清彦										8	1	225	2	1	183	5	1	368	6	1	206	0						
2008	40	平成20年	40周年	寺田　清彦										18	1	672	3	1	450	13	2	1167	7		557	5	3					
2009	41	平成21年		寺田　清彦										7		170	7		170	11	2	639	8	2		0						
2010	42	平成22年		寺田　清彦										13		211	10	2	200	4		200	10	1	200	0						
2011	43	平成23年		寺田　清彦										18		582	11	2	524	6		110	11	2	450	2						
2012	44	平成24年		寺田　清彦										28		351	12	2	488	1	1		11	2	356	1						337
2013	45	平成25年		寺田　清彦										18	2	284	15	1	207	0		186	22	4	206	0						
2014	46	平成26年		寺田　清彦										26	3	1418	8	1		0			14	1	218	0						
2015	47	平成27年		寺田　清彦										30	5	190	19	2	253	0		510	12	1	357	0						
2016	48	平成28年	理科部の廃部が決定	谷口　幸子										5	5	2578	3	3		0			0			0						
2017	49	平成29年	保存会発足・理科部生徒と活動	釜渕　章匡	鈴木　祥弘									11	11	3000	4		822													
2018	50	平成30年	50周年・4日間の集中豪雨で放池が遅れる・ボランティアに15人	釜渕　章匡	鈴木　祥弘									8	2	600	4															
2019	51	令和元年	50周年集会・教育長表彰・ボランティアに28人	釜渕　章匡	鈴木　祥弘									6	3	900	3	0														
2020	52	令和2年	野生生物保護功労者表彰「文部科学大臣賞」　ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱに20人 博報賞　奨励賞受賞・兵庫県グリーンスクール表彰	釜渕　章匡	杉本　哲也									55	4	1041	68	3	450	0	0	0	4	0	0	0	0	0	8	0	0
合　計						119	32	8783	8	9640	187	33	1166	546	54	26493	177	18	3997	171	37	9155	567	107	2840	244	52	5967	8	0	337

西暦	年数	元号	主な出来事	担当教諭		上山口・下山口					名来		船坂															金仙寺			合計		
						学校				光明寺			大谷線			堀田組			堀田組			堀田組			堀田組			住宅街					
						住宅街	飼育池			池	池		池			池			池			池			池			調整池					
						H	体育館横				P	Q	V			W（X）			X（Y）			Y			Z			T					
						卵塊	卵塊	採卵	放池	放池	放池	放池	卵塊	採卵	放池	卵塊	採卵	放池	卵塊	採卵	放池	卵塊	採卵	放池	卵塊	採卵	放池	卵塊	採卵	放池	卵塊	採卵	放池
1969	1	昭和44年	保護飼育開始（飼育・放池）	藤本　一幸																											3	0	0
1970	2	昭和45年	市教委が神戸大宮田澄男氏に調査依頼	藤本　一幸																											0	0	0
1971	3	昭和46年	西宮市教育委員会所管表彰	藤本　一幸																											0	0	0
1972	4	昭和47年		藤本　一幸																											15	0	0
1973	5	昭和48年	開発事業者への説明会	藤本　一幸																											16	0	0
1974	6	昭和49年	飼育池完成・業務委託開始・神戸女学院矢野悟道氏調査	宮阪　敏男																											7	4	936
1975	7	昭和50年	A池周辺で開発計画が立案される・H池放池開始	宮阪　敏男																											10	1	315
1976	8	昭和51年	オタマジャクシ大量死発生・N・F池発見	宮阪　敏男																											27	2	225
1977	9	昭和52年	神戸大宮田澄男氏に飼育指導を受ける	宮阪　敏男			9			200																					49	4	600
1978	10	昭和53年	10周年	宮阪　敏男			3			270																					24	2	920
1979	11	昭和54年	新聞紹介	住江（和田）裕子			1			300																					27	2	1,500
1980	12	昭和55年	パンフレット発行（市教委）	住江（和田）裕子					200	150																					39	3	1,370
1981	13	昭和56年		住江（和田）裕子					1000																						30	11	2,200
1982	14	昭和57年		坂田　雅一																											22	9	2,060
1983	15	昭和58年		坂田　雅一	坂本　操		2		500																						32	11	3,600
1984	16	昭和59年		坂田　雅一	坂本　操		3		500																						41	10	4,100
1985	17	昭和60年	ゴルフ場・店舗開発の増加	坂田　雅一	坂本　操		2		1000																						50	28	4,500
1986	18	昭和61年	西宮市教育長表彰	坂田　雅一	坂本　操		5		200																						24	10	1,700
1987	19	昭和62年		坂田　雅一	坂本　操		1	1	200																						21	7	2,400
1988	20	昭和63年	船坂地区へ移植開始（X・Y池）・20周年	坂田　雅一	坂本　操		2	1													150			150							32	5	922
1989	21	平成元年	飼育池撤去・「ふるさといきものの里」認定	坂田　雅一	坂本　操		1														40			45							35	6	1,585
1990	22	平成2年	新校舎理科室で飼育	坂田　雅一																											34	11	1,702
1991	23	平成3年	飼育小屋完成・県知事より「環境保全功労者」表彰	坂田　雅一	西村　正史																										53	10	1,835
1992	24	平成4年	名来地区へ移植開始	坂田　雅一	西村　正史					487											250			250							85	7	2,520
1993	25	平成5年	船坂への移植成功	坂田　雅一	西村　正史					500									1		150			161							113	8	2,451
1994	26	平成6年		西村　正史															19	1	300	8		300							82	10	1,873
1995	27	平成7年		西村　正史						319	350								8	5	350	2	1	300							70	10	2,376
1996	28	平成8年		上田　浩司															8		420	4		453							77	10	2,014
1997	29	平成9年		上田　浩司						396									6		301	6		166							61	10	2,053
1998	30	平成10年	名来地区へ移植・30周年	上田　浩司						264									12		421										80	10	1,876
1999	31	平成11年	阪神高速道路北神戸線の工事が本格化	上田　浩司															11		488										92	12	1,961
2000	32	平成12年		上田　浩司															8		488										71	11	1,623
2001	33	平成13年		上田　浩司															8		358	6									68	10	1,693
2002	34	平成14年		上田　浩司															3			2									22	5	528
2003	35	平成15年	阪神高速道路北神戸線（有馬-山口）開通	上田　浩司															10			6									90	10	2,027
2004	36	平成16年	W池発見	寺田　清彦												3			4												47	8	1,090
2005	37	平成17年	30周年記録冊子発行	寺田　清彦												5	1		7		290	6	1								46	7	1,418
2006	38	平成18年	環境大臣賞受賞、新聞紹介	寺田　清彦												7	1		1			9	1	290	14	1					64	5	1,326
2007	39	平成19年		寺田　清彦												21	1	259	2		186	14	1		5						63	6	1,427
2008	40	平成20年	40周年	寺田　清彦												32	2		0		320	14			7	1					99	10	3,166
2009	41	平成21年		寺田　清彦												20	2		2			7	1	350	10		450				72	7	1,779
2010	42	平成22年		寺田　清彦												14	3		1			10	1	170	3		235				65	7	1,216
2011	43	平成23年		寺田　清彦												13			6			17	1	413	15	2	480				99	7	2,559
2012	44	平成24年		寺田　清彦												33			1		382	13	2	382	13						113	7	1,959
2013	45	平成25年		寺田　清彦												17	2		3			18	1	376	6		366				99	10	1,625
2014	46	平成26年		寺田　清彦												11			2			29	4	285	14	2	320				104	11	2,241
2015	47	平成27年		寺田　清彦																											61	8	1,310
2016	48	平成28年	理科部の廃部が決定	谷口　幸子												1															9	8	2,578
2017	49	平成29年	保存会発足・理科部生徒と活動	釜渕　章匡	鈴木　祥弘											5	5	2500	13	13	3600	0			8	8	2400				41	37	12,322
2018	50	平成30年	50周年・4日間の集中豪雨で放池が遅れる・ボランティアに15人	釜渕　章匡	鈴木　祥弘								28	7	2100	6	0		9	3	900	2	0		12	5	818				69	17	4,418
2019	51	令和元年	50周年集会・教育長表彰・ボランティアに28人	釜渕　章匡	鈴木　祥弘								25	6	1000	6	0	572	11	3	200	1	0		12	2	400				64	14	3,072
2020	52	令和2年	野生生物保護功労者表彰「文部科学大臣賞」　ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱに20人 博報賞　奨励賞受賞・兵庫県グリーンスクール表彰	釜渕　章匡	杉本　哲也								73	3	926	20	1	174	10	0	0	19	1	100	20	0	0	4	0	0	281	12	2,691
合　計						0	29	2	3600	920	1966	350	126	16	4026	214	18	3505	166	25	9594	193	15	4191	139	21	5469	4	0	0	2,898	430	101,662

記念碑